

広島商船高等専門学校				産業システム工学専攻				開講年度		平成29年度 (2017年度)					
学科到達目標															
電子制御工学系															
電子制御に関わる高度な知識・技術を持ち、制御機器・システムの技術開発や管理ができる人材を目指す。															
(1)電気・電子、機械、計測、制御、情報などの電子制御分野に加え、安全、環境、社会工学分野の知識・技術を修得し、制御機器・システムの開発や運用の能力を身につける。(2) 特別研究に取り組み、変化する社会や産業の状況を把握して課題を発見し、その解決策を計画して実行するとともに、その結果を検証する能力を身につける。															
流通情報工学系															
経営や情報に関わる高度な知識・技術を持ち、流通や物流の技術開発やマネジメントができる人材を目指す。															
(1)物流、輸送・交通工学、マーケティング、コスト・マネジメントなど流通・社会工学分野に加え、安全、環境に関わる知識・技術を修得し、流通・社会システムの開発やマネジメントの能力を身につける。															
(2) 特別研究に取り組み、変化する社会や産業の状況を把握して課題を発見し、その解決策を計画して実行するとともに、その結果を検証する能力を身につける。															
科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数								担当教員	履修上の区分
						専1年				専2年					
						前		後		前		後			
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
一般	必修	英語	19専15001	学修単位	2	2								下田 旭美,池田 幸恵	
専門	必修	数理科学 A	19専15002	学修単位	2	2								菅田 慶川,崎雄貴	
専門	必修	産業システム工学特別演習	19専15003	学修単位	2	2								永岩 健一郎	
専門	必修	コンピュータ活用概論 I	19専15004	学修単位	2	2								加藤 博明	
専門	選択	電子物性工学	19専15005	学修単位	2	2								酒池 耕平	
専門	選択	電気数学	19専15006	学修単位	2	2								大和田 寛	
専門	選択	創造設計工学	19専15007	学修単位	2	2								吉田 哲哉	
専門	選択	交通工学	19専15008	学修単位	2	2								岡山 正人	
専門	選択	ターミナル工学	19専15009	学修単位	2	2								永岩 健一郎	
専門	選択	交通計画論	19専15010	学修単位	2	2								岡山 正人	
専門	選択	社会基盤論	19専15011	学修単位	2	2								風呂本 武典,金子 春生	
専門	必修	数理科学 C	19専15012	学修単位	2			2						藤原 滋泰	
専門	選択	情報サービス技術概論	19専15013	学修単位	2			2						内山 憲子	
専門	必修	特別研究 I	19専15014	学修単位	2			2						永岩 健一郎	
専門	必修	産業システム工学特別実験	19専15015	学修単位	2			2						永岩 健一郎	
専門	選択	電子計測特論	19専15016	学修単位	2			2						梶原 和範	
専門	選択	機構設計論	19専15017	学修単位	2			2						吉田 哲哉	
専門	選択	ソフトウェア工学	19専15018	学修単位	2			2						成清 勝博	
専門	選択	シミュレーション工学	19専15019	学修単位	2			2						佐藤 正知	
専門	選択	輸送安全工学	19専15020	学修単位	2			2						大野 遼太郎	
専門	選択	輸送ネットワーク	19専15021	学修単位	2			2						永岩 健一郎	
専門	選択	ライフサイクル・アナリシス	19専15022	学修単位	2			2						風呂本 武典	
専門	選択	特別研修	19専15023	学修単位	2	1		1						永岩 健一郎	
一般	選択	比較政治論	19専25001	学修単位	2					2				小河 浩	
一般	選択	比較文学思想論	19専25012	学修単位	2							2		朝倉 和	

一般	選択	生命環境科学	19専 25013	学修単 位	2							2	大沼 み お	
専門	必修	数理科学 B	19専 25002	学修単 位	2					2			遠入 大 二	
専門	選択	コンピュータ活用概論Ⅱ	19専 25003	学修単 位	2					2			岩切 裕 哉	
専門	必修	特別研究Ⅱ	19専 25004	学修単 位	10					5		5	雷 康斌	
専門	選択	エネルギー変換工学	19専 25005	学修単 位	2					2			梶原 和 範	
専門	選択	システム制御論	19専 25006	学修単 位	2					2			綿崎 将 大	
専門	選択	数理計画法	19専 25007	学修単 位	2							2	小川 春 樹	
専門	選択	ロジスティクス工学	19専 25008	学修単 位	2					2			岡山 正 人	
専門	必修	環境工学	19専 25009	学修単 位	2					2			岸 拓真	
専門	選択	社会システム論	19専 25010	学修単 位	2					2			金子 春 生	
専門	選択	コスト・マネジメント	19専 25011	学修単 位	2					2			風呂本 武典	
専門	選択	知的財産マネジメント論	19専 25014	学修単 位	2							2	風呂本 武典	
専門	選択	計測工学特論	19専 25015	学修単 位	2							2	梶原 和 範	
専門	選択	デバイス工学	19専 25016	学修単 位	2							2	浜崎 淳	
専門	選択	機器加工学	19専 25017	学修単 位	2							2	綿崎 将 大	
専門	選択	信号処理論	19専 25018	学修単 位	2							2	大和田 寛	
専門	選択	画像工学	19専 25021	学修単 位	2							2	成清 勝 博	
専門	選択	マーケティング・リサーチ	19専 25022	学修単 位	2							2	岡山 正 人	
専門	選択	特別研修	19専 25023	学修単 位	2					1		1	雷 康斌	

広島商船高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	英語	
科目基礎情報							
科目番号	19専15001		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻		対象学年		専1		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	教員が作成した教材						
担当教員	下田 旭美,池田 幸恵						
到達目標							
(1) 教材用ではないオーセンティックな音声を聞き取ることができる。 (2) 実践的な語彙や慣用表現を習得することができる。 (3) 音声の変化、イントネーション、リズム、発音のポイントを踏まえて話すことができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	教材用ではないオーセンティックな音声を聞き取ることが十分にできる。		教材用ではないオーセンティックな音声を聞き取ることができる。		教材用ではないオーセンティックな音声を聞き取ることができない。		
評価項目2	実践的な語彙や慣用表現を十分に習得できている。		実践的な語彙や慣用表現を習得できている。		実践的な語彙や慣用表現を十分に習得できていない。		
評価項目3	音声の変化、イントネーション、リズム、発音のポイントを踏まえて話すことが十分にできる。		音声の変化、イントネーション、リズム、発音のポイントを踏まえて話すことができる。		音声の変化、イントネーション、リズム、発音のポイントを踏まえて話すことができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本科目では、語学教材のために録音された音声ではなく、映画、プレゼンテーション、スピーチといったオーセンティックな音声を教材として、リスニング・スピーキング活動を行う。英語アフレコに取り組むことで、英語を話すことへの抵抗感を減らし、今後の自由即興スピーキングへつながる橋渡しとしての英語力を育成する。						
授業の進め方・方法	本授業では、まずオーセンティックな音声を聞き取る活動を行い、そこで使われている語彙や文法を確認し、内容を理解する。その後、指定箇所のセリフの音読練習活動を行い、録音やリアルタイムでアフレコを行い、発表する。						
注意点	前回の授業に関する小テストを行うので、十分に復習をして授業に臨むこと。 アフレコ発表は評価に含まれるので、授業内でのスピーキング練習にしっかりと取り組むこと。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業についての説明 映画作品の視聴		授業の目標は流れについて理解できる 次回以降の授業で扱われる作品の内容を理解できる		
		2週	映画作品のリスニング(1)		指定場面のセリフを聞き取ることができる 語彙や熟語表現を理解し、内容がわかる		
		3週	映画作品のスピーキング(1)		指定場面のセリフを音の変化や発音のポイントを踏まえてアフレコすることができる		
		4週	映画作品のリスニング(2)		指定場面のセリフを聞き取ることができる 語彙や熟語表現を理解し、内容がわかる		
		5週	映画作品のスピーキング(2)		指定場面のセリフを音の変化や発音のポイントを踏まえてアフレコすることができる		
		6週	映画作品のリスニング(3)		指定場面のセリフを聞き取ることができる 語彙や熟語表現を理解し、内容がわかる		
		7週	映画作品のスピーキング(3)		指定場面のセリフを音の変化や発音のポイントを踏まえてアフレコすることができる		
		8週	映画作品のリスニング(4)		指定場面のセリフを聞き取ることができる 語彙や熟語表現を理解し、内容がわかる		
	2ndQ	9週	映画作品のスピーキング(4)		指定場面のセリフを音の変化や発音のポイントを踏まえてアフレコすることができる		
		10週	映画作品のリスニング(5)		指定場面のセリフを聞き取ることができる 語彙や熟語表現を理解し、内容がわかる		
		11週	映画作品のスピーキング(5)		指定場面のセリフを音の変化や発音のポイントを踏まえてアフレコすることができる		
		12週	TEDのプレゼンテーションのリスニング		プレゼンテーションを聞き取ることができる 語彙や熟語表現を理解し、内容がわかる		
		13週	TEDのプレゼンテーションのリスニング		プレゼンテーションを聞き取り、ディクテーションできる 語彙や熟語表現を理解し、内容がわかる		
		14週	TEDのプレゼンテーションのスピーキング		プレゼンテーションを音の変化や発音のポイントを踏まえてアフレコすることができる		
		15週	オバマ前大統領の広島スピーチのリスニング		スピーチを聞き取ることができる 語彙や熟語表現を理解し、内容がわかる		
		16週	オバマ前大統領の広島スピーチのスピーキング		スピーチを音の変化や発音のポイントを踏まえてアフレコすることができる		
評価割合							
	試験	小テスト	レポート・課題	発表	成果品・実技	その他	合計
総合評価割合	0	60	0	30	0	10	100

基礎的能力	0	60	0	0	0	10	70
專門的能力	0	0	0	30	0	0	30
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	数理科学 A	
科目基礎情報							
科目番号	19専15002			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	これからスタート！理工学の基礎数学演習ノート 松田修著 電気書院						
担当教員	菅田 慶/川崎 雄貴						
到達目標							
(1)初等関数の基礎を理解する。 (2)線形代数の基礎を理解する。 (3)微分学と積分学の基礎を理解する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
初等関数	初等関数の基礎を理解し、発展的な問題を解くことができる。			初等関数の基礎が理解できる。		初等関数の基礎が理解できない。	
線形代数	線形代数の基礎を理解し、発展的な問題を解くことができる。			線形代数の基礎を理解できる。		線形代数の基礎が理解できない。	
微分積分学	微分学と積分学の基礎を理解し、発展的な問題を解くことができる。			微分学と積分学の基礎を理解できる。		微分学と積分学の基礎が理解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	既に本科で学んだ内容の総復習と発展である。易しい問題の反復練習により、不足している理工学に必要な基礎知識のスピーディな体得を目指す。数理科学B、数理科学C、専門科目を習得するために必要不可欠な数学に！に関する知識を学び、自然現象を科学的に理解するとともに実践に際してそれらを活用できる能力を習得する。 ※この科目では、金融企業での実務経験がある教員が、その経験を活かして実践的な統計学等の教育を行う。						
授業の進め方・方法	教科書に沿った内容で、演習中心の授業を行う。毎回その授業の内容の課題を出題する。						
注意点	(1) 今後学ぶ数学や専門科目の基礎となる科目であるから、学習内容をしっかりと身に付ける必要がある。 (2) 学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。教科書・問題集などを活用して主体的に学習すること。 (3) 復習課題を出題するので必ず期限内に提出すること。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。 (5) 三角関数、指数関数、対数関数、行列、行列式、微分、積分の基礎について復習しておくこと。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	三角関数の基本性質		三角関数の意味を理解し、三角比の値を求めることができる。		
		2週	三角関数の基本性質		三角関数を用いて図形問題が解くことができる。		
		3週	三角関数の応用		一般角の三角比が求めることができる。		
		4週	三角関数の応用		三角関数の諸性質を使って、やや複雑な三角比の値を求めることができる。		
		5週	指数・対数		指数関数の基礎が理解し、様々な計算や方程式、不等式を解くことができる。		
		6週	指数・対数		対数関数の基礎が理解し、様々な計算や方程式、不等式を解くことができる。		
		7週	2次曲線、行列と行列式		円の方程式が理解できる。行列の定義を理解し、その計算ができる。		
		8週	行列と行列式		行列式の計算ができる。また、逆行列を求めることができる。		
	2ndQ	9週	行列と行列式の応用		行列を用いて連立方程式を解くことができる。		
		10週	複素数		複素数の定義を理解し、計算ができる。		
		11週	ベクトル		ベクトルの諸性質を理解し、図形への応用ができる。		
		12週	微分学		極限値の計算および基本的な微分の計算ができる。		
		13週	微分学		やや複雑な微分の計算ができる。		
		14週	微分学		微分の応用ができる。		
		15週	積分学		積分の計算ができる。		
		16週	総合演習		これまでの内容の理解度の確認を試験形式で行う。		
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	60	0	0	0	0	100
基礎的能力	40	60	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	産業システム工学特別演習	
科目基礎情報							
科目番号		19専15003		科目区分		専門 / 必修	
授業形態		講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科		産業システム工学専攻		対象学年		専1	
開設期		前期		週時間数		2	
教科書/教材		なし					
担当教員		永岩 健一郎					
到達目標							
様々な研究テーマや研究方法について知るとともに、特別研究の担当教員を選択する。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		特別研究の目標と取り組むにあたっての心構えについて認識できる。		特別研究の目標と取り組むにあたっての心構えについて概ね認識できる。		特別研究の目標と取り組むにあたっての心構えについて認識できていない。	
評価項目2		特別研究に使用する機器・器具を用いて、基本的な手順をもとに安全に特別研究を実施することができる。		特別研究に使用する機器・器具を用いて、安全に特別研究を実施することができる。		特別研究に使用する機器・器具を用いて、安全に特別研究を実施することができない。	
評価項目3		特別研究の目的・手順・成果を論理的にまとめ、評価・報告することができる。		特別研究の目的・手順・成果を論理的にまとめることができる。		特別研究の目的・手順・成果を論理的にまとめることができない。	
評価項目4		特別研究の基礎研究を実施し、得られた成果を分析し、様々な視点から成果を考察することができる。		特別研究の基礎研究を実施し、得られた成果を分析することができる。		特別研究の基礎研究を実施して得られた成果を分析することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		特別演習は、特別研究の前段階として開設する。担当教員それぞれが自身の研究のテーマについて紹介する。具体的には、問題の発見から研究テーマ設定、問題解決策の発見から研究の進め方について概説するとともに、各担当の専門やそれに関連する技術動向や研究状況などの公開によって特別研究の意義や動機について理解を深める。 【複数教員担当方式】 【オムニバス方式】 【クラス分け方式】					
授業の進め方・方法		様々な研究テーマや研究方法について知るとともに、特別研究の担当教員を選択する。					
注意点		(1) 作業服・作業帽・安全靴を着用し、筆記用具を携行すること。 (2) 安全基本方針(健康管理、実験環境の美化、約束の遵守)を常に念頭に置き、実習を遂行すること。 (3) 実習は危険が伴うこともあるため、必ず指示に従うこと。 (4) 課題は、期限内に必ず提出すること。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		(1) 特別研究に取り組むにあたっての基本的な心構えについて認識できる。 (2) 特別研究論文の書き方について理解できる。 (3) 特別研究を実施する際の災害防止と安全について理解できる。		
		2週	担当教員：吉田、永岩		吉田：高延性接着剤の接着強度に関する研究 永岩：内航フィードネットワークの構築に関する研究		
		3週	担当教員：成清、岡山		成清：色覚異常に対するバリアフリー 岡山：過疎・高齢化地域の交通問題に関する研究		
		4週	担当教員：梶原、遠入		梶原：デジタルメタの高精度な利用方法に関する研究 遠入：量子暗号の理解とシミュレーション		
		5週	担当教員：大和田、風呂本		大和田：医用生体工学（ガン温熱療法のための非侵襲温度計測法） 風呂本：地域産業政策に関する研究		
		6週	担当教員：浜崎、田上		浜崎：固体撮像素子の高性能化に関する研究 田上：地域とビジネスに関する研究		
		7週	担当教員：綿崎、岩切		綿崎：超電導技術を用いた小型高トルク回転機の研究 岩切：ヒューマンコンピュータインタラクションに関する研究、及び、文化財のデジタルアーカイブに関する研究		
		8週	担当教員：綿崎、岩切		酒池：フレキシブルエレクトロニクスに関する研究 鈴木：瀬戸内海離島における災害時に備えた備蓄の現状把握及び問題抽出に関する研究		
	2ndQ	9週	担当教員：佐藤、大高		佐藤：周波数資源を有効活用する無線通信システムに関する研究 大高：人の視覚特性を模擬した画像処理		
		10週	担当教員：埜、加藤		若松：流体力学の数値計算法 加藤：分子構造情報処理に関する研究		
		11週	担当教員：石橋、金子		石橋：マシユ方程式が持つ解の振動性 金子：行政法および行政訴訟に関する研究		
		12週	担当教員：全員		特別研究のテーマ絞り、各教員との相談・説明		
		13週	担当教員：全員		特別研究のテーマ絞り、各教員との相談・説明		

		14週	担当教員：全員	選択したテーマで以降の演習を行う			
		15週	担当教員：全員	選択したテーマで以降の演習を行う			
		16週	担当教員：全員	選択したテーマで以降の演習を行う			
評価割合							
	試験	小テスト	レポート・課題	発表	成果品・実技	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	40	45	15	100
基礎的能力	0	0	0	15	15	5	35
専門的能力	0	0	0	15	15	5	35
分野横断的能力	0	0	0	10	15	5	30

広島商船高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	コンピュータ活用概論 I	
科目基礎情報							
科目番号	19専15004			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	特になし (適宜、資料を配布します)						
担当教員	加藤 博明						
到達目標							
(1) コンピュータシステムの概要が説明できる。 (2) オープンソースソフトウェア(OSS)の概要が説明できる。 (3) OSSを用いたシステムを構築・運用できる。 (4) 情報セキュリティの重要性を理解し、必要な対策ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	コンピュータシステムの概要が理解でき、具体的な構成について説明できる。		コンピュータシステムの概要が説明できる。		コンピュータシステムの概要が説明できない。		
評価項目2	オープンソースソフトウェア(OSS)の概要が理解でき、代表的なシステムについて説明できる。		オープンソースソフトウェア(OSS)の概要が説明できる。		オープンソースソフトウェア(OSS)の概要が説明できない。		
評価項目3	OSSを用いたシステムを構築し、カスタマイズできる。		OSSを用いたシステムを構築できる。		OSSを用いたシステムが構築できない。		
評価項目4	情報セキュリティの重要性が理解でき、必要な対策を立案できる。		情報セキュリティの重要性が説明できる。		情報セキュリティの重要性が説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	コンピュータシステムの概要について学ぶとともに、オープンソースソフトウェア(OSS)を用いたシステムの構築を行う。 また、コンピュータを活用する上で必要不可欠となる情報セキュリティ技術について学ぶ。						
授業の進め方・方法	講義と演習を組み合わせながら進める。 演習課題をレポートとして提出してもらい、適宜、発表する場を設ける。 フラッグボードで提供する資料等を確認して、予習・復習すること。						
注意点	海事システム工学専攻と産業システム工学専攻との共通の専門基礎科目である。 コンピュータシステムの基本概念を概説するとともに、各分野でのIT活用能力の向上を目指す。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1. コンピュータシステムの概要		・ハードウェアとソフトウェアの概要が説明できる。		
		2週	1. コンピュータシステムの概要		・オープンソースソフトウェアの概要が説明できる。		
		3週	1. コンピュータシステムの概要		・データベースシステムの概要が説明できる。		
		4週	1. コンピュータシステムの概要		・ネットワークシステムの概要が説明できる。		
		5週	2. システムの構築		・OS (UNIX/Linux) の概要を理解し、インストールできる。		
		6週	2. システムの構築		・OS (UNIX/Linux) のコマンドラインを利用した操作ができる。		
		7週	2. システムの構築		・通信プロトコルの概要を理解し、簡単なネットワーク通信ができる。		
		8週	2. システムの構築		・ソフトウェアパッケージのインストールができる。		
	2ndQ	9週	3. システムの操作		・プログラミング言語 Pythonの概要が説明できる。		
		10週	3. システムの操作		・Python のインタラクティブシェルを用いた操作ができる。		
		11週	3. システムの操作		・Webフレームワークの概要が説明できる。		
		12週	3. システムの操作		・Webフレームワークを利用した動的なWebページが作成できる。		
		13週	4. 情報セキュリティ対策		・著作権とネットワークエチケットの概要が説明できる。		
		14週	4. 情報セキュリティ対策		・セキュリティリスクの概要が説明できる。		
		15週	4. 情報セキュリティ対策		・必要な情報セキュリティ対策が立案できる。		
		16週	5. まとめ				
評価割合							
	試験	小テスト	レポート・課題	発表	成果品・実技	その他	合計
総合評価割合	50	20	30	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	50	20	30	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	電子物性工学	
科目基礎情報							
科目番号	19専15005			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	参考書：S.M. Sze 「半導体デバイス」（産業図書）						
担当教員	酒池 耕平						
到達目標							
(1) 原子内の電子配置を理解できる (2) 半導体のキャリアとエネルギーバンド構造を理解できる。 (3) 半導体におけるキャリアの挙動が理解できる。 (4) 理想的なPN接合の電子の振る舞いが理解できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	原子内の電子配置を理解でき、各量子数を使って説明できる。			原子内の電子配置を理解できる。		原子内の電子配置を理解できない。	
評価項目2	半導体のキャリアとエネルギーバンド構造を定量的に理解でき、物理的振る舞いと数式を対応付けて説明できる。			半導体のキャリアとエネルギーバンド構造を定量的に理解できる。		半導体のキャリアとエネルギーバンド構造を理解できない。	
評価項目3	半導体のキャリアの挙動を定量的に理解でき、物理的振る舞いと数式を対応付けて説明できる。			半導体のキャリアの挙動を定量的に理解できる。		半導体のキャリアの挙動を理解できない。	
評価項目4	理想的なPN接合の電子の振る舞いを定量的に理解でき、物理的振る舞いと数式を対応付けて説明できる。			理想的なPN接合の電子の振る舞いを定量的に理解できる。		理想的なPN接合の電子の振る舞いを理解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	現代社会を支えている電子機器は、多くの半導体デバイスで構成されている。半導体内部の電子の振る舞いを理解することは、半導体デバイスさらには電子機器内部の動作を理解する上で必要不可欠である。本講義では、半導体中の電子現象を物性論的に解説し、これに基づいてダイオードなどの半導体素子の素子物性を説明できる能力を身に付ける。 ※この科目では、民間企業での実務経験がある教員が、その経験を活かして実践的な電気・電子工学教育を行う。						
授業の進め方・方法	(1) 電子工学系の応用となる科目であるので、これまでの電子工学系の学習内容を身に付けていることが前提である。 (2) 学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠であり、主体的に学習すること。 (3) 理解できないことは授業内外を問わず、積極的に質問すること。						
注意点	・ 授業内容は全て連続しているため、授業の前に事前学習として、それまでの授業内容を理解しておくことが重要である。 ・ 予習として、それまでの授業内容をもう一度自分で学習してから次の授業に臨むこと。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	半導体内部の電子状態		水素原子模型を理解できる		
		2週	半導体内部の電子状態		電子の波動・粒子の二重性、波動関数を理解できる		
		3週	半導体内部の電子状態		光の放射と吸収を理解できる		
		4週	半導体のキャリアとバンド構造		固体のエネルギー帯構造について理解できる		
		5週	半導体のキャリアとバンド構造		伝導帯、価電子帯の構造を理解できる		
		6週	半導体のキャリアとバンド構造		真性半導体、不純物半導体の性質を理解できる		
		7週	半導体のキャリアとバンド構造		フェルミ-ディラックの分布関数を理解できる		
		8週	半導体のキャリアとバンド構造		電子と正孔のエネルギー分布を理解できる		
	2ndQ	9週	半導体のキャリアの挙動		ドリフト電流を理解できる		
		10週	半導体のキャリアの挙動		導電率とキャリアの移動度を理解できる		
		11週	半導体のキャリアの挙動		キャリアの生成と再結合、拡散について理解できる		
		12週	半導体のキャリアの挙動		半導体における光学的な過程を理解できる		
		13週	理想的なPN接合		PN接合の整流作用、高電界現象を説明できる		
		14週	理想的なPN接合		PN接合の容量-電圧特性、過渡現象を説明できる		
		15週	到達度試験				
		16週	答案返却・解説・総復習				
評価割合							
	試験	小テスト	レポート・課題	発表	成果品・実技	自学自習	合計
総合評価割合	70	0	15	0	0	15	100
基礎的能力	35	0	10	0	0	10	55
専門的能力	35	0	5	0	0	5	45
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	電気数学	
科目基礎情報							
科目番号	19専15006			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	教科書は特に定めず、プリントを主体とする。 参考書：卯本重郎「基礎電気数学」（オーム社）						
担当教員	大和田 寛						
到達目標							
(1) 電子制御に必要な初等関数がいこなせる。 (2) 交流回路網の計算ができる。 (3) ラプラス変換を使って過渡応答や周波数応答の計算ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	電子制御に必要な初等関数を十分に理解し、かつ工学分野における発展的応用例について理解し、適切に利用できる。			電子制御技術に必要な初等関数がいこなすことができる。		電子制御技術に必要な初等関数がいこなせない。	
評価項目2	交流回路網の諸定理（重ね合わせの理、鳳・テブナンの定理、ノートンの定理）を適用して、回路網の解析ができる。			網目電流法等の基本的な解法を用いて交流回路網の計算ができる。		交流回路網の計算ができない。	
評価項目3	システムの支配方程式をラプラス変換してシステムのブロック線図を作成し、簡単な制御系の応答特性や安定性を評価するための関係を導出できる。			ラプラス変換を使って過渡応答や周波数応答の計算ができる。		ラプラス変換を使って過渡応答や周波数応答の計算ができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本科目は、本科で学習した数学を復習・発展させ、特に電気・電子工学系科目を数理的に理解する能力の習得、および専門的知識・技術の確立と発展的応用を目標とする。 主な学習内容は、初等関数、行列・行列式、ラプラス変換等の電気電子工学への応用、および演習である。						
授業の進め方・方法	・授業形態はゼミ形式（事前学習・準備と発表、学生同士の議論を主とする授業形態）とする。 ・講義、演習に加え、回路設計や特性測定などの実習も取り入れる。						
注意点	・初等関数、行列・行列式やラプラス変換等について予習・復習しておくこと。 ・また、予習として、それまでの授業内容をもう一度自分で学習してから次の授業に臨むこと。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	初等関数		三角関数、指数関数、対数関数、双曲線関数等の計算ができる。		
		2週	初等関数		三角関数、指数関数、対数関数、双曲線関数等の工学分野へ応用できる。		
		3週	複素数とベクトル		複素数表示について直交座標表示、極座標表示、絶対値、位相の計算および四則演算等ができる。		
		4週	複素数とベクトル		複素数表示について直交座標表示、極座標表示、絶対値、位相の計算および四則演算等ができる。		
		5週	複素数とベクトル		複素インピーダンスを使った回路の計算ができる。		
		6週	行列と行列式		行列、行列式の計算ができる。		
		7週	行列と行列式		クラメルの公式を使った連立方程式の計算ができる。		
		8週	行列と行列式		キルヒホッフの法則（網目電流法）の計算ができる。		
	2ndQ	9週	ラプラス変換		ラプラス変換の基本的性質を理解している。		
		10週	ラプラス変換		ラプラス変換・逆ラプラス変換の計算ができる。		
		11週	ラプラス変換		ラプラス変換を用いた微分方程式の解法を理解している。		
		12週	ラプラス変換		ラプラス変換を用いた微分方程式の解法を理解している。		
		13週	ラプラス変換		伝達関数の概念・求め方や基本的な過渡応答について理解している。		
		14週	ラプラス変換		周波数応答（ボード線図、ナイキスト線図）を理解している。		
		15週	ラプラス変換		過渡応答、周波数応答の解析ができる。		
		16週	ラプラス変換		過渡応答、周波数応答の解析ができる。		
評価割合							
	発表	レポート・課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	30	20	10	0	0	100
基礎的能力	15	10	10	5	0	0	40
専門的能力	25	20	10	5	0	0	60

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---	---

広島商船高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	創造設計工学	
科目基礎情報							
科目番号	19専15007			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	教科書は特に定めず、プリントを主体とする。						
担当教員	吉田 哲哉						
到達目標							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	3次元C A Dシステムの基本的機能を説明でき、加工法を考慮した手順で部品図を製作できる。			3次元C A Dシステムの基本的機能を説明でき、部品図を製作できる。		3次元C A Dシステムの基本的機能の説明および部品図を製作できない。	
評価項目2	3次元C A Dシステムの組立て機能を説明でき、複雑な製品の組立図を製作できる。			3次元C A Dシステムの組立て機能を説明でき、組立図を製作できる		3次元C A Dシステムの組立て機能の説明および組立図を製作できない。	
評価項目3	3次元C A DシステムのCAE機能を説明でき、強度解析と運動解析ができる。			3次元C A DシステムのCAE機能を説明でき、強度解析ができる。		3次元C A DシステムのCAE機能の説明および強度解析ができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本授業においては、製品設計で実際に使われている3次元CADシステムについての知識・技術を習得し、それを実際に活用する能力を養います。						
授業の進め方・方法	授業計画にしたがって授業を進めます。学習内容は、3次元CAD／CAMを使用した機械設計法です。実習として3次元CADシステムを使用し本科目の理解を深めます。						
注意点	(1)授業内容にしたがって要点の説明を行う。その都度、実習を行い理解を深めていく。 (2)本科で学習した設計製図、CAD/CAMの授業内容について復習しておくこと。 (3)ポイント毎に演習課題を行うので、必ず期限内に提出すること。 (4)本科目は、機構設計論に関係している。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1 3次元C A D入門		1-(1) 3次元C A Dの概念を理解できる。		
		2週	1 3次元C A D入門		1-(1) 3次元C A Dの概念を理解できる。		
		3週	2 3次元C A Dの基本機能		2-(1) 基本機能（押し出し、シェル、フィレット、押し出しカット、面取り）を利用し、ソリッドモデル（部品）を作製できる。		
		4週	2 3次元C A Dの基本機能		2-(1) 基本機能（押し出し、シェル、フィレット、押し出しカット、面取り）を利用し、ソリッドモデル（部品）を作製できる。		
		5週	2 3次元C A Dの基本機能		2-(2) 作製した部品でアセンブリを作製できる。		
		6週	2 3次元C A Dの基本機能		2-(2) 作製した部品でアセンブリを作製できる。		
		7週	2 3次元C A Dの基本機能		2-(3) 作製した部品の3面図を製作できる。		
		8週	2 3次元C A Dの基本機能		2-(4) 作製したアセンブリの寸法等の変更ができる。		
	2ndQ	9週	2 3次元C A Dの基本機能		2-(5) リンク機構のアニメーションができる。		
		10週	2 3次元C A Dの基本機能		2-(6) カム機構のモーション解析ができる。		
		11週	3 3次元C A D演習		3-(1) 総合的な演習（からくり工作の設計）		
		12週	3 3次元C A D演習		3-(1) 総合的な演習（からくり工作の設計）		
		13週	3 3次元C A D演習		3-(1) 総合的な演習（からくり工作の設計）		
		14週	3 3次元C A D演習		3-(1) 総合的な演習（からくり工作の設計）		
		15週	3 3次元C A D演習		3-(1) 総合的な演習（からくり工作の設計）		
		16週	3 3次元C A D演習		3-(1) 総合的な演習（からくり工作の設計）		
評価割合							
	試験	小テスト	レポート・課題	発表	成果品・実技	その他	合計
総合評価割合	0	0	100	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	100	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	交通工学	
科目基礎情報							
科目番号	19専15008			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	教科書は特に定めないが、参考書として「竹内他著 交通工学（鹿島出版）」を用いる。						
担当教員	岡山 正人						
到達目標							
(1)交通流や交通容量の概念を理解するとともに、信号制御について知る。 (2)交通が引き起こす環境問題とその対策方法について理解する。 (3)過疎・高齢化が引き起こす交通問題について理解し、その対策について学ぶ。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	信号による交通流制御の考え方が簡単に説明できる。		交通流や交通容量といった概念を簡単に説明できる。		交通流や交通容量といった概念を説明できない。		
評価項目2	交通が引き起こす環境問題について現在どのような対策が考えられているかを簡単に説明できる。		交通が引き起こす環境問題についてどのようなものがあるかを簡単に説明できる。		交通が引き起こす環境問題についてどのようなものがあるかを説明できない。		
評価項目3	過疎・高齢化が引き起こす交通の課題解決に向けて現在考えられているものにどのようなものがあるかを簡単に説明できる。		過疎・高齢化が引き起こす交通の課題にどのようなものがあるかを簡単に説明できる。		過疎・高齢化が引き起こす交通の課題にどのようなものがあるかを説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	公共部門で物流を支えているものの一つが交通である。本講義では、交通工学の基礎を学ぶ。						
授業の進め方・方法	交通工学の基礎事項として交通流や交通容量の考え方を学ぶとともに、現在の交通が有している環境問題や過疎・高齢化による課題などについて理解し、現在考えられているそれらに対する対策とその問題点を学ぶ。講義（基本的な事項の説明）を中心に授業を進める。数回の課題および全授業終了後に最終レポートを提出してもらう。						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	交通と交通工学 1		交通工学で扱う交通とは何かを説明できる。		
		2週	交通と交通工学 2		モータリゼーションの進展による交通工学への影響について説明できる。		
		3週	交通と交通工学 3		交通工学と交通計画の関連について簡単に説明できる。		
		4週	交通と交通工学 4		交通工学の近年の課題について簡単に説明できる。		
		5週	交通流と交通容量、信号制御 1		交通流の分析手法について説明できる。		
		6週	交通流と交通容量、信号制御 2		交通容量について説明できる。		
		7週	交通流と交通容量、信号制御 3		交通制御の方法について説明できる。		
		8週	交通流と交通容量、信号制御 4		交通流のマネジメント方法について説明できる。		
	2ndQ	9週	交通と環境 1		交通による騒音被害について説明できる。		
		10週	交通と環境 2		交通による大気汚染について説明できる。		
		11週	交通と環境 3		環境を考慮した交通の在り方について簡単に説明できる。		
		12週	過疎・高齢化社会と交通 1		モータリゼーションと公共交通の衰退についてその概要を説明できる。		
		13週	過疎・高齢化社会と交通 2		コミュニティバスについて簡単に説明できる。		
		14週	過疎・高齢化社会と交通 3		デマンドバスについて簡単に説明できる。		
		15週	過疎・高齢化社会と交通 4		S Tサービスについて簡単に説明できる。		
		16週	予備				
評価割合							
	試験	課題レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	50	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	50	50	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	ターミナル工学	
科目基礎情報							
科目番号	19専15009			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	自作テキスト						
担当教員	永岩 健一郎						
到達目標							
(1)在庫管理の実践的な手法や解法を説明できる。 (2)表計算ソフトを用いて、より実践的な在庫管理シミュレーションにより、最適解を求めることができる。 (3)表計算ソフトを用いた待ち行列シミュレーションについて説明できる。 (4)表計算ソフトを用いて待ち行列シミュレーションにより、最適解を求めることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	在庫管理の実践的な手法や解法を説明できる。			在庫管理の一般的な手法や解法を説明できる。		在庫管理の一般的な手法や解法を説明できない。	
評価項目2	表計算ソフトを用いて、より実践的な在庫管理シミュレーションにより、最適解を求めることができる。			表計算ソフトを用いて、より一般的な在庫管理シミュレーションにより、最適解を求めることができる。		表計算ソフトを用いて、より一般的な在庫管理シミュレーションにより、最適解を求めることができない。	
評価項目3	表計算ソフトを用いた実践的な待ち行列シミュレーションについて説明できる。			表計算ソフトを用いた一般的な待ち行列シミュレーションについて説明できる。		表計算ソフトを用いた一般的な待ち行列シミュレーションについて説明できない。」	
評価項目4	表計算ソフトを用いて待ち行列シミュレーションにより、実践的な最適解を求めることができる。			表計算ソフトを用いて待ち行列シミュレーションにより、一般的な最適解を求めることができる。		表計算ソフトを用いて待ち行列シミュレーションにより、一般的な最適解を求めることができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	港湾、空港、駅、物流センター、トラックターミナル、駐車場など様々なターミナルにおける管理手法の在庫管理、待ち行列、日程計画などについてエクセルを利用した解法について学ぶ。また、精密な解を求めるための数学的に厳密な算法だけでなく、許された時間内にできるだけ良質の解を得る近似解法についても理解を深め、ロジスティクスなどの新たなシステム開発の問題に応用する能力を養うことを目標とする。						
授業の進め方・方法	講義1/2と演習1/2の比率であり、解法の解説と演習中心の講義 1.在庫管理 2.需要予測 3.待ち行列						
注意点	各自、シラバスの項目や内容を確認して参考書等により予習し、講義終了時に指示する次回講義の予習を自宅学習とする。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	導入	ターミナル工学で取り扱う、在庫管理と待ち行列の概論			
		2週	在庫管理の基礎	商品の需要データを与えて、自由な発想で在庫管理を検討させる			
		3週	在庫管理の基礎	個々の管理手法のディスカッションと評価			
		4週	定期発注法	需要データに定期発注法を適用して、在庫管理費用により評価する			
		5週	定期発注法	需要データをモンテカルロ法により発生させ、定期発注法のシミュレーションを行い、経済性を評価する			
		6週	定量発注法	需要データに定量発注法を適用して、在庫管理費用により評価する			
		7週	定量発注法	需要データをモンテカルロ法により発生させ、定量発注法のシミュレーションを行い、経済性を評価する			
		8週	最適発注方法の検討	需要データの分析を行い、最適発注法を検討する			
	2ndQ	9週	最適発注方法の検討	個々に検討した最適発注法についてのプレゼンテーション。			
		10週	単一窓口待ち行列のシミュレーション	単一窓口の待ち行列についての概要と解析的解法			
		11週	単一窓口待ち行列のシミュレーション	到着時間間隔とサービス時間のデータを乱数で発生させて、シミュレーションを行う			
		12週	複数窓口待ち行列のシミュレーション	複数窓口の待ち行列についての概要と解析的解法			
		13週	複数窓口待ち行列のシミュレーション	到着時間間隔とサービス時間のデータを乱数で発生させて、シミュレーションを行う			
		14週	複数窓口待ち行列のシミュレーション	シミュレーションの評価とサービスの改善に付いての検討			
		15週	期末試験	60%以上の評価を得る。			
		16週	答案返却・解答説明	振り返りを行い、不足部分を補完できること。			
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計

総合評価割合	40	40	0	0	20	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	40	20	0	0	20	0	80
分野横断的能力	0	20	0	0	0	0	20

広島商船高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	交通計画論	
科目基礎情報							
科目番号	19専15010			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	教科書は特に定めないが、参考書として「竹内他著 交通工学（鹿島出版）」を用いる。						
担当教員	岡山 正人						
到達目標							
(1)トリップの概念およびパーソントリップ調査について簡単に説明できる。 (2)交通需要分析の考え方において四段階推定法について簡単に説明できる。 (3)過疎・高齢化が引き起こす交通問題について理解する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	トリップとトリップチェーンの概念およびパーソントリップ調査について簡単に説明できる。			トリップの概念およびパーソントリップ調査について簡単に説明できる。		トリップの概念について簡単に説明できない。	
評価項目2	四段階推定法および各段階で使用される代表的な手法について簡単に説明できる。			四段階推定法について簡単に説明できる。		四段階推定法について説明できない。	
評価項目3	過疎・高齢化が引き起こす交通問題についてどのようなものがあるか複数について知っており、それについて現在考えられている対策案について説明できる。			過疎・高齢化が引き起こす交通問題についてどのようなものがあるか複数について知っている。		過疎・高齢化が引き起こす交通問題について全く知らない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	公共部門で物流を支えているものの一つが交通である。本講義では、交通システムの計画手法を学ぶことで物流システムを構築する際の指針とする。交通分析のための調査手法、四段階推計法や現在の交通の課題、特に本校の位置する島嶼部における交通の課題などを理解する。これにより、社会情勢を把握する能力や輸送システムの開発能力を身に付ける。						
授業の進め方・方法	交通分析のための調査手法、四段階推計法や現在の交通の課題、特に本校の位置する島嶼部における交通の課題などを理解する。これにより、社会情勢を把握する能力や輸送システムの開発能力を身に付ける。講義（基本的な事項の説明）を中心に授業を進める。数回の課題および全授業終了後に最終レポートを提出してもらう。						
注意点	交通工学（1年前期）の履修を前提とはしないが、交通工学で出てくる基礎的な事項について復習しておくことが望ましい。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	交通とその計測 1		交通計画とはどのようなものかを簡単に説明できる。		
		2週	交通とその計測 2		トリップとトリップチェーンについて説明できる。		
		3週	交通とその計測 3		パーソントリップ調査について説明できる。		
		4週	交通の現状と課題 1		モータリゼーションと公共交通の衰退について説明できる。		
		5週	交通の現状と課題 2		都市部における交通問題について概要を説明できる。		
		6週	交通の現状と課題 3		地方における交通問題について概要を説明できる。		
		7週	交通需要推計 1		四段階推定法の概要とOD表について説明できる。		
		8週	交通需要推計 2		発生集中交通量の推計方法について説明できる。		
	2ndQ	9週	交通需要推計 3		分布交通量の推計方法について説明できる。		
		10週	交通需要推計 4		機関分担交通量の推定手法について理解する		
		11週	交通需要推計 5		配分交通量の推定手法について説明できる。		
		12週	交通需要推計 6		新しい交通量の推計手法として非集計行動分析について説明できる。		
		13週	新しい交通計画 1		TDMの考え方について説明できる。		
		14週	新しい交通計画 2		ITSについて説明できる。		
		15週	新しい交通計画 3		モビリティ・マネジメントの考え方について説明できる。		
		16週	予備				
評価割合							
	試験	課題レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	50	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	50	50	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	数理科学C
科目基礎情報						
科目番号	19専15012		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻		対象学年	専1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	微分積分Ⅱ(大日本図書)、新訂応用数学(田河、大日本図書)、「電子書籍(微分積分を用いた力学(学習到達度試験第9領域 過去問演習)藤原滋泰)」(http://www.hiroshima-cmt.ac.jp/faculty/ippan/007.html) / 参考図書: 「機械系の運動と振動の基礎・基本」 瀧口三千弘・藤野俊和・藤原滋泰 (海文堂)					
担当教員	藤原 滋泰					
到達目標						
(1) 基本的な微分方程式を解く事が出来る。 (2) ベクトル関数、スカラー場とベクトル場についての基本的な計算ができる。 (3) 微分と積分を用いた、力学の問題を解ける様になる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	定数係数齊次線形微分方程式や定数係数非齊次線形微分方程式についての問題も解ける。		1 階微分方程式、及び、2 階微分方程式についての基本的な問題が解ける。		微分方程式の意味について説明できない、または、基本的な変数分離形の微分方程式を解く事が出来ない。	
評価項目2	勾配、発散と回転についての問題も解ける。		ベクトル関数、スカラー場とベクトル場についての基本的な計算ができる。		空間のベクトル、外積、曲線、曲面について説明ができない。または、基本的な問題を解く事も出来ない。	
評価項目3	速度、加速度、変位の問題を微分積分を用いて解くことが出来る。また、簡単な運動について微分方程式の形で運動方程式を立て、初期値問題として解くこともできる。		速度、加速度、変位の基本的な問題を微分積分を用いて解くことが出来る。また、仕事、力積、位置エネルギーと力の基本的な問題を微分積分を用いて解くことが出来る。		速度、加速度、変位の概念を微分積分を用いて説明することが出来ない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	工学の基本的問題を解決する為に必要な、微分方程式やベクトル解析の知識・計算技術および応用能力を習得させ、この知識および技術等を工学における現象面と関連付けて活用する能力を養う。					
授業の進め方・方法	(1) 講義を行い、ノートをとってもらった後に、演習プリントを配布し、問題を解いてもらう。 (2) 問題を解き、発表する際には、質疑応答を行うことで互いの理解を深める様にする。 (3) 理解した内容をチェックするために、Blackboardのオンラインテストを受講して下さい。 (4) Blackboardから配信している、学習到達度試験対策の電子書籍をダウンロードして、問題演習に役立てて下さい。					
注意点	(1) 学習内容の説明と演習問題についての解き方の解説を行う。時間のかかる複雑な演習問題は、解法についての説明をした後、レポートとして提出させる。 (2) 本科1-3年で学んだ力学と数学を復習しておく事。 (3) 特に試験前には、演習プリントを自力で解き直す(最初から、ノートや解答を見て答えだけを探そうとしない)。 (4) 授業態度を含め、あたりまえの事をきちんとやる。苦手だからこそ、ノート、演習プリントは完全に提出できる様、毎時間、常に整えておきましょう。 試験問題の大半を占める演習プリントの問題を解ける様にしておく。解けない場合は、必ず質問して下さい。質問をする時は、ノートやプリントを持って来て下さい。 (5) 何が足りなかったから解けなかったのか、何が理解出来ていれば解けていたのかを認識出来る様に、ある程度の長時間を掛けて頑張ってください。 (6) 「電気数学」、「電子材料工学」、「数理科学A」、「数理科学B」等に関連し、発展する為の基礎も扱う。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	1. 1 階微分方程式・2 階微分方程式		1-(1) 微分方程式の意味を理解できる。	
		2週	1. 1 階微分方程式・2 階微分方程式		1-(2) 変数分離形についての問題を解くことができる。	
		3週	1. 1 階微分方程式・2 階微分方程式		1-(3) 同次形についての問題を解くことができる。	
		4週	1. 1 階微分方程式・2 階微分方程式		1-(4) 1階線形微分方程式を解くことができる。	
		5週	1. 1 階微分方程式・2 階微分方程式		1-(5) 2階線形微分方程式を解くことができる。	
		6週	1. 1 階微分方程式・2 階微分方程式		1-(6) 定数係数齊次線形微分方程式を解くことができる。	
		7週	1. 1 階微分方程式・2 階微分方程式		1-(7) 定数係数非齊次線形微分方程式を解くことができる。	
		8週	1. 1 階微分方程式・2 階微分方程式		1-(8) 1 階微分方程式・2 階微分方程式についての学習のまとめ	
	4thQ	9週	2. ベクトル関数・スカラー場とベクトル場		2-(1) 空間のベクトル、外積、曲線、曲面についての問題を解くことができる。	
		10週	2. ベクトル関数・スカラー場とベクトル場		2-(2) 勾配、発散についての計算が出来る様になる。	
		11週	2. ベクトル関数・スカラー場とベクトル場		2-(3) 回転についての計算が出来る様になる。 2-(4) ベクトル関数・スカラー場とベクトル場の学習のまとめ	
		12週	3. 微分積分を用いた力学		3-(1) 速度、加速度、変位の問題を微分積分を用いて解くことが出来る。	

		13週	3. 微分積分を用いた力学	3-(2) 仕事、力積の問題を微分積分を用いて解くことができる。
		14週	3. 微分積分を用いた力学	3-(3) 位置エネルギーと力の問題を微分積分を用いて解くことができる。
		15週	3. 微分積分を用いた力学	3-(4) 簡単な運動について微分方程式の形で運動方程式を立て、初期値問題として解くことができる。 3-(5) 微分積分を用いた力学の学習のまとめ
		16週	学年末試験 答案返却・解説	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	0	20	0	0	100
基礎的能力	40	5	0	20	0	0	65
専門的能力	30	5	0	0	0	0	35
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	情報サービス技術概論	
科目基礎情報							
科目番号	19専15013			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	配布プリントを教材として使用						
担当教員	内山 憲子						
到達目標							
(1)ネットワーク上でのサービスシステムの概要と基本的仕組みを技術的に理解することができる。 (2)サービスシステム構築の基礎知識として、HTMLを理解することができる。 (3)サービスシステム構築の応用知識として、CSSを理解することができる。 (4)データの管理や運営について理解し、アップロードの知識を手に入れることができる。 (5)より良いサービスシステム構築を自分で検討することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1	ネットワーク上でのサービスシステムの概要と基本的仕組みを技術的に理解し、説明することができる。			ネットワーク上でのサービスシステムの概要と基本的仕組みを技術的に理解することができる。		ネットワーク上でのサービスシステムの概要と基本的仕組みを技術的に理解することができない。	
到達目標2	サービスシステム構築の基礎知識として、HTMLを理解し、発展的な課題を作成することができる。			サービスシステム構築の基礎知識として、HTMLを理解することができる。		サービスシステム構築の基礎知識として、HTMLを理解することができない。	
到達目標3	サービスシステム構築の応用知識として、CSSを理解し、発展的な課題を作成することができる。			サービスシステム構築の応用知識として、CSSを理解することができる。		サービスシステム構築の応用知識として、CSSを理解することができない。	
到達目標4	データの管理や運営について理解し、アップロードの知識を手に入れ、説明することができる。			データの管理や運営について理解し、アップロードの知識を手に入れることができる。		データの管理や運営について理解し、アップロードの知識を手に入れることができない。	
到達目標5	より良いサービスシステムを構築するために、客観的評価を受けて、改善した課題を作成する努力をすることができる。			より良いサービスシステム構築を自分で検討することができる。		より良いサービスシステム構築を自分で検討することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	Webページ作成を通して、情報技術を活用したネットワーク上でのコミュニケーションのとり方や情報開示の方法を習得し、将来的に顧客開拓や集客に繋ぐことができるWebページ作りに活かす。						
授業の進め方・方法	(1)情報リテラシーにおいて学習したインターネットに関する基礎的・基本的な知識と技術を、より深化させた内容の習得と情報発信の技術としてのインターネットの活用を学ぶ。 (2)近年の社会生活や商取引などに関係する経済的状況や情報技術の変化を学ぶ。 (3)情報技術を基盤としたサービスシステムについての概要と基本的な仕組みをWebページ作成を通して理解させ、基礎科学と情報技術の習得を目指す。 (4)組織での情報開示、顧客開拓や集客に繋ぐことができるWebページ作りができる応用力の習得を目指す。						
注意点	(1) 教育専門科目であるため、学習内容をしっかりと身に付けた上での応用力や思考力が必要がある。 (2) 学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。教科書・問題集などを活用して主体的に学習すること。 (3) 課題を出題するので期限期限を守ること。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	1.Webページの基礎知識		1-(1) インターネットの歴史とその背景について理解することができる。 1-(2) 情報倫理と情報セキュリティについて理解することができる。 1-(3) 法と権利について理解することができる。 1-(4) HTMLの基本構造を理解することができる。		
		2週	1.Webページの基礎知識		1-(1) インターネットの歴史とその背景について理解することができる。 1-(2) 情報倫理と情報セキュリティについて理解することができる。 1-(3) 法と権利について理解することができる。 1-(4) HTMLの基本構造を理解することができる。		
		3週	1.Webページの基礎知識		1-(1) インターネットの歴史とその背景について理解することができる。 1-(2) 情報倫理と情報セキュリティについて理解することができる。 1-(3) 法と権利について理解することができる。 1-(4) HTMLの基本構造を理解することができる。		
		4週	2.コンピュータネットワークの仕組み		2-(1) ネットワーク技術の歴史について理解することができる。 2-(2) データ表現 (TCP/IP、ドメイン名の仕組み等) について理解することができる。 2-(3) 組織の情報開示や集客に必要なコンテンツとその利用法について理解することができる。 2-(4) 情報発信技術について理解することができる。		

		5週	2.コンピュータネットワークの仕組み	2-(1) ネットワーク技術の歴史について理解することができる。 2-(2) データ表現 (TCP/IP、ドメイン名の仕組み等) について理解することができる。 2-(3) 組織の情報開示や集客に必要なコンテンツとその利用法について理解することができる。 2-(4) 情報発信技術について理解することができる。
		6週	2.コンピュータネットワークの仕組み	2-(1) ネットワーク技術の歴史について理解することができる。 2-(2) データ表現 (TCP/IP、ドメイン名の仕組み等) について理解することができる。 2-(3) 組織の情報開示や集客に必要なコンテンツとその利用法について理解することができる。 2-(4) 情報発信技術について理解することができる。
		7週	3.動的ページの作成 I	3-(1) HTML言語の基礎を理解することができる。 3-(2) 作成するWebページの構想を練ることができる。 3-(3) 画像の提示方法やレイアウトの基本を理解することができる。 3-(4) 基本的なWebページをHTML言語を使って作成することができる。 3-(5) 作成したWebページを評価して改良し、より良いWebページを作成することができる。
		8週	3.動的ページの作成 I	3-(1) HTML言語の基礎を理解することができる。 3-(2) 作成するWebページの構想を練ることができる。 3-(3) 画像の提示方法やレイアウトの基本を理解することができる。 3-(4) 基本的なWebページをHTML言語を使って作成することができる。 3-(5) 作成したWebページを評価して改良し、より良いWebページを作成することができる。
	4thQ	9週	3.動的ページの作成 I	3-(1) HTML言語の基礎を理解することができる。 3-(2) 作成するWebページの構想を練ることができる。 3-(3) 画像の提示方法やレイアウトの基本を理解することができる。 3-(4) 基本的なWebページをHTML言語を使って作成することができる。 3-(5) 作成したWebページを評価して改良し、より良いWebページを作成することができる。
		10週	3.動的ページの作成 I	3-(1) HTML言語の基礎を理解することができる。 3-(2) 作成するWebページの構想を練ることができる。 3-(3) 画像の提示方法やレイアウトの基本を理解することができる。 3-(4) 基本的なWebページをHTML言語を使って作成することができる。 3-(5) 作成したWebページを評価して改良し、より良いWebページを作成することができる。
		11週	4.動的ページの作成 II	4-(1) CSSの基礎を理解することができる。 4-(2) 作成するWebページの構想を練ることができる。 4-(3) CSSによるデザインやレイアウト的表現を理解することができる。 4-(4) デザイン性を重視したWebページをCSSを使って作成することができる。 4-(5) 作成したWebページを評価して改良し、より良いWebページを作成することができる。
		12週	4.動的ページの作成 II	4-(1) CSSの基礎を理解することができる。 4-(2) 作成するWebページの構想を練ることができる。 4-(3) CSSによるデザインやレイアウト的表現を理解することができる。 4-(4) デザイン性を重視したWebページをCSSを使って作成することができる。 4-(5) 作成したWebページを評価して改良し、より良いWebページを作成することができる。
		13週	4.動的ページの作成 II	4-(1) CSSの基礎を理解することができる。 4-(2) 作成するWebページの構想を練ることができる。 4-(3) CSSによるデザインやレイアウト的表現を理解することができる。 4-(4) デザイン性を重視したWebページをCSSを使って作成することができる。 4-(5) 作成したWebページを評価して改良し、より良いWebページを作成することができる。
		14週	4.動的ページの作成 II	4-(1) CSSの基礎を理解することができる。 4-(2) 作成するWebページの構想を練ることができる。 4-(3) CSSによるデザインやレイアウト的表現を理解することができる。 4-(4) デザイン性を重視したWebページをCSSを使って作成することができる。 4-(5) 作成したWebページを評価して改良し、より良いWebページを作成することができる。

		15週	5.サービスシステムの構築	5-(1) WEBサーバとFTPについて学び、アップロード方法を理解することができる。 5-(2) Webページの更新方法について理解することができる。 5-(3) 技術面でのメンテナンス方法を理解することができる。
		16週	作品発表 学年末試験	

評価割合							
	試験	発表	成果品・実技	態度	ポートフォリオ	自学自習	合計
総合評価割合	0	20	50	10	0	20	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	20	50	10	0	20	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	特別研究 I	
科目基礎情報							
科目番号	19専15014			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	なし						
担当教員	永岩 健一郎						
到達目標							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	特別研究を遂行するに当たっての心構えについて認識できる。			特別研究を遂行するに当たっての心構えについて概ね認識できる。		特別研究を遂行するに当たっての心構えについて認識できていない。	
評価項目2	各研究室に所有されている機器・器具を用いて、基本的な手順をもとに安全に研究を実施することができる。			研究室に所有されている機器・器具を用いて、安全に研究を実施することができる。		各研究室に所有されている機器・器具を用いて、安全に研究を実施することができない。	
評価項目3	研究の目的を理解して研究を遂行し、得られた成果を順序立てていかに整理することができる。			研究の目的を理解して研究を遂行し、得られた成果を整理することができる。		研究の目的を理解せずに研究を遂行したうえに、得られた成果を整理することができない。	
評価項目3	研究の目的・手順・成果を論理的にまとめ、評価・報告することができる。			研究の目的・手順・成果をまとめ、説明することができる。		研究の目的・手順・成果を説明することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	産業システム工学に関する高度な研究において、研究活動全体を支える基礎的な学問領域について理解し、特別研究Ⅱにおける研究活動に主体的に取り組めるように基礎的知識の修得と関連研究をサーベイし、各自の研究の位置づけが出来るように指導する。特に研究テーマとしては地域の課題を扱うものを多く取り上げるよう、地域課題の発掘や地域の理解を深めるとともに実際の課題に対処するために基礎的能力を養う。 研究テーマを選択し、研究対象への論理的・実験的アプローチ手法、解析・評価法など一連の研究活動の計画を立案し基礎的な研究能力を養う。以上を通して、特別研究Ⅱに向けて自らの専門分野に精通し、その分野の研究状況、技術動向などを知るとともに、問題の発見やその解決策を見いだす能力を養う。 【複数教員担当方式】 【クラス分け方式】						
授業の進め方・方法	(1) 自主的に新しい情報や知識を習得し、課題への継続的な取り組みができる。 (2) 特別研究Ⅱのベースとなる研究領域の基礎を理解し、研究計画を立案・遂行し、結果を整理して解析できる。 (3) 関連する論文を調査・読解し内容を要約して報告するプレゼンテーションすることができる。 (4) 技術者としての倫理観を持ち、社会への貢献と責任感を持つことができる。						
注意点	(1) 特別研究の研究テーマは、特別研究担当教員と学生が相談して決定する。 (2) 研究テーマに関係する専門科目の授業の復習、専門書や研究論文などを読んで理解に努めること。 (3) 研究は、文献収集・実験・データ解析を実施し、研究成果は論文としてまとめること。 (4) 特別研究中間発表会は公開とし、学外者、教員、専攻科生を対象としてプレゼンテーションを行う。その際、アブストラクトをA4用紙1枚以内にまとめて提出すること。 (5) 2年次も継続して実施する。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	文献検索法修得及び文献検索		文献検索法修得及び文献検索を理解する。		
		2週	文献検索法修得及び文献検索		文献検索法修得及び文献検索を理解する。		
		3週	関連研究文献整理		関連研究文献整理を行い理解する。		
		4週	関連研究文献整理		関連研究文献整理を行い理解する。		
		5週	研究課題の絞込みと位置づけ		関連する周辺の研究課題を検索し、研究課題の絞込みと位置づけを行う。		
		6週	研究課題の絞込みと位置づけ		関連する周辺の研究課題を検索し、研究課題の絞込みと位置づけを行う。		
		7週	研究計画の立案		研究計画の立案を実施する。		
		8週	研究計画の立案		研究計画のスケジュールについて再検討を行う。		
	4thQ	9週	研究手法の検討と修得		研究計画に基づき研究手法の検討と修得を理解する。		
		10週	研究手法の検討と修得		研究計画に基づき研究手法の検討と修得を理解する。		
		11週	基礎研究		研究テーマの基礎知識を習得する。		
		12週	基礎研究		研究テーマの基礎知識および周辺知識を習得する。		
		13週	基礎研究		研究テーマの基礎分析技法を習得する。		
		14週	中間発表アブストラクト作成と発表準備		中間発表アブストラクト作成と発表準備を行う。		
		15週	中間発表アブストラクト作成と発表準備		中間発表アブストラクト作成と発表準備を行う。		
		16週					
評価割合							
	試験	態度	レポート・課題	発表	成果品・実技	その他	合計
総合評価割合	0	15	0	30	55	0	100
基礎的能力	0	5	0	10	15	0	30

專門的能力	0	5	0	10	20	0	35
分野横断的能力	0	5	0	10	20	0	35

広島商船高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	産業システム工学特別実験	
科目基礎情報							
科目番号	19専15015			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	なし						
担当教員	永岩 健一郎						
到達目標							
(1) 実験・実習を行うために心がけておくべき基本的な事項を認識できること。 (2) 実験・実習を安全に遂行できること。 (3) 内容を理解し、レポートを作成できること。 (4) 実験で得られた結果を分析し、考察することができること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	実験実習の目標と取り組むにあたっての心構えについて認識できる。		実験実習の目標と取り組むにあたっての心構えについて概ね認識できる。		実験実習の目標と取り組むにあたっての心構えについて認識できていない。		
評価項目2	実験・実習に使用する機器・器具を用いて、基本的な手順をもとに安全に実験・実習を実施することができる。		実験・実習に使用する機器・器具を用いて、安全に実験・実習を実施することができる。		実験・実習に使用する機器・器具を用いて、安全に実験・実習を実施することができない。		
評価項目3	実験・実習の目的・手順・成果を論理的にまとめ、評価・報告することができる。		実験・実習の目的・手順・成果を論理的にまとめることができる。		実験・実習の目的・手順・成果を論理的にまとめることができない。		
評価項目4	実験を実施し、得られた成果を分析し、様々な視点から成果を考察することができる。		実験を実施し、得られた成果を分析することができる。		実験を実施して得られた成果を分析することができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	産業システムにおける各専門分野ごとに基礎となる理論・手法や主要な要素の特性などを、実験を通して理解する。また、このような実験を通して創造的かつ主体的にその項目内容について活用・研究できることを目指す。なお実験は学生が以下の各項目から1つ選択するが、原則特別研究の担当教員とする。 【複数教員担当方式】 【クラス分け方式】						
授業の進め方・方法	(1) 実験・実習を行うために心がけておくべき基本的な事項を認識できること。 (2) 実験・実習を安全に遂行できること。 (3) 内容を理解し、レポートを作成できること。 (4) 実験で得られた結果を分析し、考察することができること。						
注意点	(1) 安全な服装・靴を着用し、筆記用具を携帯すること。 (2) 安全基本方針(健康管理、実験環境の美化、約束の遵守)を常に念頭に置き、実習を遂行すること。 (3) 実習は危険が伴うこともあるため、必ず指示に従うこと。 (4) 課題は、期限内に必ず提出すること。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス		(1) 実験実習に取り組むにあたっての基本的な心構えについて認識できる。 (2) 実験レポートの書き方について理解できる。 (3) 実験実習を実施する際の災害防止と安全について理解できる。		
		2週	産業システム工学における応用研究に関する討議		他の分野の研究に関する手法および技術を理解し、討論できる。		
		3週	産業システム工学における応用研究に関する討議		同上		
		4週	産業システム工学における応用研究に関する討議		同上		
		5週	産業システム工学における応用研究に関する討議		同上		
		6週	産業システム工学における応用研究に関する討議		同上		
		7週	産業システム工学における応用研究に関する討議		同上		
		8週	産業システム工学における応用研究に関する討議		同上		
	4thQ	9週	産業システム工学における応用研究に関する討議		同上		
		10週	産業システム工学における応用研究に関する討議		同上		
		11週	産業システム工学における応用研究に関する討議		同上		
		12週	産業システム工学における応用研究に関する討議		同上		
		13週	産業システム工学における応用研究に関する討議		同上		
		14週	産業システム工学における応用研究に関する討議		同上		
		15週	産業システム工学における応用研究に関する討議		同上		
		16週					
評価割合							
	試験	小テスト	レポート・課題	発表	成果品・実技	その他	合計
総合評価割合	0	0	40	0	45	15	100

基礎的能力	0	0	10	0	15	5	30
專門的能力	0	0	15	0	15	5	35
分野横断的能力	0	0	15	0	15	5	35

広島商船高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	機構設計論	
科目基礎情報							
科目番号	19専15017			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	教科書は特に定めず、プリントを主体とする。						
担当教員	吉田 哲哉						
到達目標							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	複雑なカムについてExcelを使用し、カム曲線を計算できる。			基本的なカムについて Excelを使用し、カム曲線を計算できる。		基本的なカムについてExcelを使用し、カム曲線を計算できない。	
評価項目2	複雑なリンク機構についてExcelを使用し、リンク機構の運動解析ができる。			基本的なリンク機構についてExcelを使用し、リンク機構の運動解析ができる。		基本的なリンク機構についてExcelを使用し、リンク機構の運動解析ができない。	
評価項目3	複雑な歯車列についてExcelを使用し、機能計算と強度計算ができる。			変速機の歯車列についてExcelを使用し、機能計算と強度計算ができる。		変速機の歯車列についてExcelを使用し、機能計算と強度計算ができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本科目で最新の技術動向を把握し、新たなものづくりに活用できる能力を習得する。						
授業の進め方・方法	授業計画にしたがって授業を進めます。学習内容は、カム機構、リンク機構、歯車機構である。演習としてExcelでの解析を行う。						
注意点	(1)ゼミ形式で、学生とのコミュニケーションをとりながら、習熟度に合わせてポイントを押さえ授業を進める。 (2)ポイント毎に演習課題を行うので、必ず期限内に提出すること。 (3)本科で学習した機構学、設計製図について復習しておくこと。 (4)Excelの使用方法について学習しておくこと。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	1カム機構		1-(1) カムの基本、カム機構の分類と形式を理解できる。		
		2週	1カム機構		1-(2) カム機構の設計手順を説明できる。		
		3週	1カム機構		1-(3) カム曲線、カム曲線の特性値、ユニバーサルカム曲線を説明できる。		
		4週	1カム機構		1-(4) Excelを使用し、カム曲線を計算できる。		
		5週	1カム機構		1-(4) Excelを使用し、カム曲線を計算できる。		
		6週	2リンク機構		2-(1) 平面リンク機構の運動解析と解析モジュールによるシステム解析方法を理解できる。		
		7週	2リンク機構		2-(2) 解析モジュールの計算式を理解できる。		
		8週	2リンク機構		2-(3) 解析モジュールを用いた解析手順を理解できる。		
	4thQ	9週	2リンク機構		2-(4) Excelを使用し、リンク機構の運動解析ができる。		
		10週	2リンク機構		2-(4) Excelを使用し、リンク機構の運動解析ができる。		
		11週	3歯車機構		3-(1) 変速機の基本構造を理解できる。		
		12週	3歯車機構		3-(2) 機能計算に必要な駆動力、走行抵抗、減速比等を求めることができる。		
		13週	3歯車機構		3-(3) 歯車の寸法計算と強度計算ができる。		
		14週	3歯車機構		3-(3) 歯車の寸法計算と強度計算ができる。		
		15週	3歯車機構		3-(4) Excelで変速機の歯車列の機能計算ができる。		
		16週	3歯車機構		3-(4) Excelで変速機の歯車列の機能計算ができる。		
評価割合							
	試験	小テスト	レポート・課題	発表	成果品・実技	その他	合計
総合評価割合	0	0	80	20	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	80	20	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	ソフトウェア工学	
科目基礎情報							
科目番号	19専15018			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	ハーバート・シルト「独習C# 第3版」(翔泳社)						
担当教員	成清 勝博						
到達目標							
(1) C# の文法を修得する。 (2) オブジェクト指向言語の概念が分かる。 (3) コンポーネントの使い方が分かる。 (4) タイマー割り込みが分かる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	必要に応じて、書籍やインターネットで文法を調べ、プログラムを作成することができる。		授業で学んだ文法が理解できる。		授業で学んだ文法が理解できない。		
評価項目2	C言語と違い、オブジェクト指向の要素が含まれていることが理解できる		継承、多態性の概念が理解できる。		継承、多態性の概念が理解できない。		
評価項目3	必要に応じたコンポーネントを自ら選択し利用できる。		指定されたコンポーネントの使い方が分かる。		指定されたコンポーネントの使い方が分からない。		
評価項目4	タイマー割り込みを使用したプログラムを企画して作成できる。		タイマー割り込みのプログラムが書ける。		タイマー割り込みのプログラムが書けない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	①情報技術を活用して、必要な情報の検索や収集、データ分析をすることができる能力を身につける。 ②電子制御工学、流通情報工学のいずれかの専門分野に精通し、その分野の研究状況や技術動向を把握することができることの2点である。						
授業の進め方・方法	Windowsで動作するプログラムの開発を行う。C#によるプログラム作成を行う。演習室で講義と演習を行う。作成したプログラムの報告書作成を時間外に課す。						
注意点	C言語の機能を拡張し、オブジェクト指向を取り入れた言語を学習するので、C言語の知識が前提となる。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	visual studio の使い方		プログラム作成、コンパイル、実行ができる。		
		2週	visual studio の使い方		フォームにボタンのオブジェクトを配置し、プロパティやメソッドの概念が分かる。		
		3週	電卓プログラム		必要なオブジェクトを選択し利用できる。		
		4週	電卓プログラム		必要なアルゴリズムを考案することができる。		
		5週	電卓プログラム		アプリケーションのデザインを工夫することができる。		
		6週	電卓プログラム		作成したプログラムを再検討し、改善することができる。		
		7週	ゲームプログラム		提示されたゲームのルールが理解できる		
		8週	ゲームプログラム		必要なオブジェクトを選択し利用できる。		
	4thQ	9週	ゲームプログラム		必要なアルゴリズムを考案することができる。		
		10週	ゲームプログラム		アプリケーションのデザインを工夫することができる。		
		11週	ゲームプログラム		作成したプログラムを再検討し、改善することができる。		
		12週	タイマープログラム		必要なオブジェクトを選択し利用できる。		
		13週	タイマープログラム		必要なアルゴリズムを考案することができる。		
		14週	タイマープログラム		アプリケーションのデザインを工夫することができる。		
		15週	タイマープログラム		作成したプログラムを再検討し、改善することができる。		
		16週	課題提出の確認				
評価割合							
	試験	レポート	成果品	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	60	40	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	50	40	0	0	0	90
分野横断的能力	0	10	0	0	0	0	10

広島商船高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	輸送ネットワーク	
科目基礎情報							
科目番号	19専15021			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	参考書：ネットワーク理論（日科技連）						
担当教員	永岩 健一郎						
到達目標							
(1)実際の輸送問題をモデリングする方法を知っている。 (2)輸送計画問題の近似解を求めることができる。 (3)近似解から飛び石法を用いて、輸送計画問題を解決することができる。 (4)線形計画法を用いて、輸送計画問題を解決することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	実際の輸送問題を数式モデルとして定式化でき、表計算ソフトで最適解を求めることができる。			輸送問題の最適解を表計算ソフトで求めることができる。		輸送問題の最適解を表計算ソフトで求めることができない。	
評価項目2	輸送計画問題の近似解を高速にヒューリスティック解法で求めることができる。			輸送計画問題の近似解をツールを使って求めることができる。		輸送計画問題の近似解を求めることができない。	
評価項目3	近似解から飛び石法を用いて、輸送計画問題を解決することができる。			輸送計画問題をなんらかのツールを用いて解決することができる。		輸送計画問題をツールを用いて解決することができない。	
	輸送計画問題を数式モデルで定式化し線形計画法を用いて輸送計画問題を解決することができる。			線形計画法を用いて、輸送計画問題を解決することができる。		輸送計画問題を数式モデルで定式化できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本講義では、輸送ネットワークの問題を「いくつかの条件を満たす変数の組のなかで、ある関数の値を最大（小）にするものを求める」という最適化問題の形に記述して、問題あるいはその解のもつさまざまな性質を解析する方法を学ぶ。また、表計算ソフトによる線形計画問題の解析ツールを用いるために、問題を定式化し求めるための手順について理解を深め、ロジスティクスなどの現実の問題に精通し、研究成果や最新の技術を応用する能力を養うことを目標とする。						
授業の進め方・方法	(1) 産業システム工学専攻の専門基礎科目であるから、学習内容をしっかりと身に付ける必要がある。 (2) 学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。教科書・配布プリントなどを活用して主体的に学習すること。 (3) 学修単位のため復習課題を毎回出題するので必ず期限内に提出すること。						
注意点	学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	1.導入		1-(1) 輸送ネットワーク計画問題を説明できる。		
		2週	2.輸送ネットワーク問題		2-(1) 輸送問題を数式モデルで定式化できる。		
		3週	2.輸送ネットワーク問題		2-(2) 輸送問題のエクセルのソルバーで求めることができる。		
		4週	3.最短路問題		3-(1) グラフの基礎概念、連結性、接続行列をスライドを用いて説明できる。		
		5週	3.最短路問題		3-(2) 最短路問題の最適解をソルバーを使って求めることができる。		
		6週	3.最短路問題		3-(3) ノード数50の輸送ネットワーク問題をソルバーにより最適解を求めることができる。		
		7週	4.最大流問題		4-(1) 最大流問題を数式モデルで一般的に表現できる。		
		8週	4.最大流問題		4-(2) 最大流問題の最適解をソルバーを使って求めることができる。		
	4thQ	9週	5.最小費用流問題		5-(1) 最小費用流問題を数式モデルで表現できる。		
		10週	5.最小費用流問題		5-(2) 最小費用流問題の最適解をソルバーで求めることができる。		
		11週	6.ヒッチコック型輸送問題		6-(1) ヒッチコック型問題を数式モデルで表現できる。		
		12週	6.ヒッチコック型輸送問題		6-(2) ヒッチコック型問題の最適解をソルバーで求めることができる。		
		13週	7.多種流問題		7-(1) 多種流問題を数式モデルで表現できる。		
		14週	7.多種流問題		7-(2) 多種流問題の最適解をソルバーで求めることができる。		
		15週	期末試験		60%以上の評価を得る。		
		16週	答案返却・解説		振り返りを行い、不足部分を補完できること。		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計

総合評価割合	60	0	0	0	20	20	100
基礎的能力	40	0	0	0	20	20	80
専門的能力	20	0	0	0	0	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	特別研修
科目基礎情報						
科目番号	19専15023		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	演習		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻		対象学年	専1		
開設期	通年		週時間数	1		
教科書/教材	なし					
担当教員	永岩 健一郎					
到達目標						
実社会や異文化社会における技術者とはどのようなものなのかを理解する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	特別研修の目標と取り組むにあたっての心構えについて認識できる。		特別研修の目標と取り組むにあたっての心構えについて概ね認識できる。		特別研修の目標と取り組むにあたっての心構えについて認識できていない。	
評価項目2	特別研修に使用する機器・器具を用いて、基本的な手順をもとに安全に特別研修を実施することができる。		特別研修に使用する機器・器具を用いて、安全に特別研修を実施することができる。		特別研修に使用する機器・器具を用いて、安全に特別研修を実施することができない。	
評価項目3	特別研修の目的・手順・成果を論理的にまとめ、評価・報告することができる。		特別研修の目的・手順・成果を論理的にまとめることができる。		特別研修の目的・手順・成果を論理的にまとめることができない。	
評価項目4	特別研修の基礎研究を実施し、得られた成果を分析し、様々な視点から成果を考察することができる。		特別研修の基礎研究を実施し、得られた成果を分析することができる。		特別研修の基礎研究を実施して得られた成果を分析することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	企業におけるインターンシップ、海外語学研修や各種出前授業（総称として研修とする）を実施し、実社会での活動、語学や異文化、人前で講義することを体験することにより社会や産業の状況を把握するとともに、これまでに主として座学で学んだ理論あるいは実験で学んだ事柄が、実際にどのように応用されているかを理解する。また、実社会でのグローバル技術者としての心構えについて自ら考え、知識や技術、情報などを自発的かつ継続的に獲得する能力を養う。					
授業の進め方・方法	実社会や異文化社会における技術者とはどのようなものなのかを理解するため、本校の出前授業、企業におけるインターンシップ、海外語学留学など体験型の学習を実施する。					
注意点	（１） 研修先により異なるため、受け入れ先の条件、概要を充分把握しておくこと。 （２） 研修中は、受け入れ先の指導を良く守り、本校の専攻科生であることを自覚して行動すること。また、事前に傷害保険等に入っておくこと。 （３） 報告書は、期限内に必ず提出すること。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	概要説明		（１） 特別研修に取り組むに当たっての基本的な心構えについて認識できる。 （２） 研修の概要、目的を理解する。 （３） 特別研修の報告書の書き方について理解できる。 （４） 特別研修を実施する際の災害防止と安全について理解できる。	
		2週	研修先の希望調査		先の受け入れ先の条件等を把握する。	
		3週	研修先の希望調査		先の受け入れ先の条件等を把握する。	
		4週	研修先の調整		受け入れ先の決定を行う。	
		5週	研修先の調整		受け入れ先の決定を行う。	
		6週	事前調査		受け入れ先の概要および研修に必要な知識等を事前学修する。	
		7週	事前調査		受け入れ先の概要および研修に必要な知識等を事前学修する。	
		8週	事前レポートの作成		受け入れ先について調べた内容をレポートととして作成する。	
	2ndQ	9週	研修の実施		研修先での研修内容を修得し、実社会での心構え等について体得する。	
		10週	研修の実施		研修先での研修内容を修得し、実社会での心構え等について体得する。	
		11週	研修の実施		研修先での研修内容を修得し、実社会での心構え等について体得する。	
		12週	研修の実施		研修先での研修内容を修得し、実社会での心構え等について体得する。	
		13週	研修の実施		研修先での研修内容を修得し、実社会での心構え等について体得する。	
		14週	研修成果レポートの作成		研修内容をレポートにまとめる。（別紙：研修報告書）	

		15週	研修成果発表	研修で得た成果を発表することで、プレゼンテーション能力を向上させる。
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	レポート・課題	発表	成果品・実技	合計
総合評価割合	0	0	0	0	50	0	50	100
基礎的能力	0	0	0	0	20	0	20	40
専門的能力	0	0	0	0	20	0	20	40
分野横断的能力	0	0	0	0	10	0	10	20

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	比較文学思想論	
科目基礎情報							
科目番号	19専25012			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻			対象学年	専2		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	必要に応じて随時配布する。						
担当教員	朝倉 和						
到達目標							
(1)文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。 (2)代表的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。また、それらに親しもうとすることができる。 (3)教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。 (4)読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	文学作品について、鑑賞の方法を理解し、実践できる。また、幅広い文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。			文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。		文学作品について、鑑賞の方法を理解できない。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解したり、作品の意義について意見を述べることができない。	
評価項目2	幅広い古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。また、それらに親しもうとすることができる。			代表的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。また、それらに親しもうとすることができる。		基礎的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解したり、作品の意義について意見を述べることができない。また、それらに親しもうとすることができない。	
評価項目3	教材として取り上げた作品以外にも、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。			教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。		教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できない。	
評価項目4	読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に積極的に生かすことができる。			読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。		読書習慣の形成をとおして感受性を培ったり、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	中国や西洋からの影響、中国文学・西洋文学との比較という視点を持って、上代から現代にかけての日本文学史を概観することによって、現在の国際社会に対応できる、多様な視点や価値観を養成する。特にその時代を代表するような作品を取り上げて、読み深めていく。						
授業の進め方・方法	「授業計画」を参照のこと。						
注意点	(1) 出席代わりとして、講義に関する小テストや、講義に関するビデオを鑑賞し、その感想を提出させる。 (2) シラバスの項目・内容を確認して、プリント等で予習しておくこと。 (3) 板書記録用のノートまたはルーズリーフの他に、プリント保管用のファイルや国語辞典、漢和辞典を持参することが望ましい（電子辞書で可）。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	漢文の基礎 訓読・句法・故事成語		訓読・句法・故事成語を確認できる。		
		2週	中古① 平安文学と漢文・くずし字～『土佐日記』『貞信公記』『小右記』		(1) 日本語の言葉・文字・思想・知識は、漢語・漢文を基礎としていることを理解できる。 (2) 平安時代に漢詩文ブームがあり、公的な記録は漢文で記されていたことを理解できる。		
		3週	中古② 『源氏物語』と「長恨歌」		『源氏物語』桐壺巻の冒頭と「長恨歌」を比較し、各々の作品や、日本文学・中国文学の特質を理解できる。		
		4週	中古③ 『枕草子』と白居易		(1) 白居易の生涯や、詩人としての特徴を知ることができる。 (2) 『枕草子』『雪のいと高く降りたるを』における白居易詩の影響を理解できる。		
		5週	中世① 日本文学と中国文学に見る「無常観」～『徒然草』		『徒然草』に見られる無常観が、中国文学のものと異質であることを理解できる。		
		6週	中世② 禅宗と日本文学（抄物）		五山文学（禅林の文学）を知ることができる。		
		7週	瀬戸内海と日本古典文学		瀬戸内近郊地域・社会に対する興味・関心・理解を深めることができる。		
		8週	日本近現代文学史概観①		日本近代文学黎明期の時代背景・状況を把握する。		
	4thQ	9週	日本近現代文学史概観②		同上		

	10週	近代① 文体をめぐって(1)	文学の発展と文体との関係を理解する。
	11週	近代② 文体をめぐって(2)	今日の文体に至る過程を理解する。
	12週	近代③ 明治期の文壇	明治期の文壇の状況を、共通点と相違点から理解・把握する。
	13週	近代④ 大正期の文壇	大正期の文壇の状況を、前時代からの推移を含め理解する。
	14週	現代 昭和・平成期の文壇	現代の文壇について、その多様性を理解する。
	15週	日本近現代文学史総括	日本近現代文学史の全体像を理解・把握する。
	16週	学年末試験	

評価割合

	試験	小テスト	レポート・課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	20	0	0	0	100
基礎的能力	70	10	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	コンピュータ活用概論Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	19専25003			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	授業内容に応じた資料を提示します。 参考書として、HTML,CSS,JavaScript,Reactなどに関する書籍を参考にしてください。						
担当教員	岩切 裕哉						
到達目標							
(1)HTML/CSSを使ったWebページが作成できる。 (2)JavaScriptとNode.jsを使ったWebページが作成できる。 (3)Next.jsを使ったクライアントサイドとサーバサイドを組み合わせたWebアプリケーションが開発できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	HTML/CSSを使い、思い通りのWebページが作成できる。			HTML/CSSを使ったWebページが作成できる。		HTML/CSSを使ったWebページが作成できない。	
評価項目2	JavaScriptを使い、目的に応じたインタラクティブなWebページが作成できる。			JavaScriptを使ったインタラクティブなWebページが作成できる。		JavaScriptを使ったインタラクティブなWebページが作成できない。	
評価項目3	Reactの概要を理解し思い通りに作成できる。			Reactを用いて開発できる。		Reactを用いて開発できない。	
評価項目4	Next.jsを用いて、クライアントサイドとサーバサイドを組み合わせたWebアプリケーションが開発できる。			Next.jsを用いたWebアプリケーションが開発できる。		Next.jsを用いたWebアプリケーションが開発できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	Webアプリケーションは多くの場面で利用されている。Webアプリケーションで利用されているJavaScriptをサーバ側で利用できるようにしたフレームワークであるNode.jsについて体験的に学ぶ。						
授業の進め方・方法	授業は演習を中心に進める。試行錯誤することが大事です。また、分からないところがあれば積極的に質問すること。						
注意点	言語問わずプログラミングに関する基本的な知識が必須です。無い場合には、自主的に学習するなど対応が必要です。不明な点があれば、Teamsのチャットもしくは、研究室まで質問しに来てください（昼休みにはなるべく研究室にいるようにしています）						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	開発環境の構築		Linuxを使った開発環境を構築することができる		
		2週	HTML/CSSの基本		Webページを記述するためのHTML/CSSの基本的な記述ができる。		
		3週	HTML/CSSの基本		Webページを記述するためのHTML/CSSの基本的な記述ができる。		
		4週	Node.jsの基本		Node.jsを使ったJavaScriptプログラムが作成できる。		
		5週	Node.jsの基本		Node.jsを使ったJavaScriptプログラムが作成できる。		
		6週	Webアプリケーション		HTML、CSS、JavaScript、Node.jsによるWebアプリケーションを作ることができる。		
		7週	Webアプリケーション		HTML、CSS、JavaScript、Node.jsによるWebアプリケーションを作ることができる。		
		8週	Webアプリケーション		HTML、CSS、JavaScript、Node.jsによるWebアプリケーションを作ることができる。		
	2ndQ	9週	データベース		Firebase等のデータベースと連携するWebアプリケーションを作ることができる。		
		10週	データベース		Firebase等のデータベースと連携するWebアプリケーションを作ることができる。		
		11週	Reactの基本		Reactを使ったWebアプリケーションを作ることができる。		
		12週	Reactの基本		Reactを使ったWebアプリケーションを作ることができる。		
		13週	WebAPIの基本		Webアプリケーションを作成するためのフレームワークを利用しWebAPIを作り、それを使ったWebアプリケーションつくることができる。		
		14週	WebAPIの基本		Webアプリケーションを作成するためのフレームワークを利用しWebAPIを作り、それを使ったWebアプリケーションつくることができる。		
		15週	WebAPIの基本		Webアプリケーションを作成するためのフレームワークを利用しWebAPIを作り、それを使ったWebアプリケーションつくることができる。		
		16週	まとめ				

評価割合							
	試験	レポート	成果品	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	70	30	0	0	0	100
基礎的能力	0	30	0	0	0	0	30
専門的能力	0	40	30	0	0	0	70
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	エネルギー変換工学		
科目基礎情報								
科目番号		19専25005			科目区分	専門 / 選択		
授業形態		講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科		産業システム工学専攻			対象学年	専2		
開設期		前期			週時間数	2		
教科書/教材		必要に応じて配布する/ 参考書:						
担当教員		梶原 和範						
到達目標								
エネルギー変換は現代社会において、基盤であるエネルギーという姿勢を持ち、環境問題に至るまでの空間・時間的な広がりを持った内容であることを出発点とする。そのような背景により、次のような内容を学習する。 (1)エネルギー変換が社会における重要な要素であることを理解し、説明できる (2)課題に設定内容について、現状・課題・課題解決の各段階を確認して、提言をする (3)エネルギーにまつわる項目について、技術者（あるいは人間）の責任について説明できる								
ルーブリック								
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1		エネルギーの変換と現代社会におけるエネルギー問題の重要性を認識して、その危うさについて教授できる		エネルギーの変換と現代社会における重要性を認識し、その背後にある危うさについて事例を通して理解し、発表する		エネルギーの変換と現代社会における重要性を認識できず、その背後にある危うさについて理解できない		
評価項目2		エネルギー変換が社会における重要な要素であることを優先とする根拠とともに優先順位づけして、教授できる		エネルギー変換が社会における重要な要素であることを優先とする根拠と優先順位を付し、発表する		エネルギー変換が社会における重要な要素であるは理解するが、その項目について根拠と優先順位を付すことができない		
評価項目3		現在のエネルギーに関連する課題の設定を行い、内容について、現状・課題・課題解決という一連の内容を教授する		現在のエネルギーに関連する課題の設定を行い、内容について、現状・課題・課題解決に向けた検討について発表する		現在のエネルギーに関連する課題の設定は行うことはできるが、内容について、現状・課題・課題解決に向けた検討ができない		
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要		エネルギー変換はエネルギー問題、環境問題にと関連する。その出発点に基づき、次のような内容を学習する。 (1)課題・問題を現状より抽出して、理解し、説明する (2)現状の調査・課題抽出・課題解決の各段階を意識して、とりまとめる (3)エネルギーにまつわる項目について、人間生活または技術者の責任について調査して探査する (4)エネルギーに関係する安全性や文化、環境、倫理性の観点から幅広く技術とのかかわり方を考察し、人間として、または技術者としての責任ある判断力と行動の指針をコメントする						
授業の進め方・方法		エネルギーの変換と現代社会における重要性とその背後にある危うさについて事例を調査を行う。 (1)エネルギー・環境についての現状調査 (2)その調査に基づき、課題を抽出する (3)当該課題についての課題解決を試みる 授業はそれぞれの時間に、問題設定を行うため、その設定された課題・問題の調査・取りまとめを行う。その際、定性的な検討からはじめ、数量的な検討であることを心掛けて行う。						
注意点		授業では学生が調査した内容を中心として、発表・討論形式で行うためのプレゼンテーション資料を作成する 授業の事前、事後学習に時間をとり、授業を効率よくこなす。 授業時間以外における学習成果は提出する。						
授業の属性・履修上の区分								
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業		
授業計画								
		週	授業内容			週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	エネルギー変換工学 序論			授業の枠組み・諸注意		
		2週	学びと学習形態について その1			文献調査のとりまとめかた		
		3週	学びと学習形態について その2			調査に内容からの課題抽出例		
		4週	エネルギーについて その1			エネルギーの定義・種類・多様性		
		5週	エネルギーについて その2			エネルギーの形態と変換の形態		
		6週	エネルギーと社会システム その1			エネルギーと経済に関する討論		
		7週	エネルギーと社会システム その2			エネルギーと環境に関する討論		
		8週	エネルギー生成システム その1			電気エネルギー生成原理の社会的位置づけ		
	2ndQ	9週	エネルギー生成システム その2			電気エネルギーと電気需要と供給システム		
		10週	エネルギー生成システム その3			火力発電システムの原理と変換効率		
		11週	エネルギー生成システム その4			火力発電システムの社会的な問題		
		12週	エネルギー生成システム その5			原子力発電システムの社会的な問題の考察		
		13週	再生可能エネルギーによる発電システム及び蓄電 その1			・風力発電システム・太陽光発電システム		
		14週	再生可能エネルギーによる発電システム及び蓄電 その2			・潮流・潮汐発電システム		
		15週	再生可能エネルギーによる発電システム及び蓄電 その3			・温度差発電システム、燃料電池		
		16週	総合演習			資源エネルギーの有効利用について 結果の確認		
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	レポート・課題	合計

総合評価割合	0	40	0	0	0	0	60	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	20	20
専門的能力	0	20	0	0	0	0	20	40
分野横断的能力	0	20	0	0	0	0	20	40

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	システム制御論	
科目基礎情報							
科目番号	19専25006			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	綿崎 将大						
到達目標							
(1)システム制御の概要について説明ができる。 (2)シミュレーションによるシステム特性の評価について、概要説明ができる。 (3)システム設計の考え方について、概要の説明ができる。 (4)必要な条件を与えられることによって、電気回路を対象とした動特性に対するシミュレーション解析ができる。 (5)システムの故障率と信頼度について、与えられた条件において設計することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	システム制御の概要について理解しており、具体例による詳細説明ができる。			システム制御の概要について説明ができる。		システム制御の概要について理解できない。	
評価項目2	シミュレーションによるシステム特性の評価について、複数の技法などについて説明ができる。			シミュレーションによるシステム特性の評価について、概要説明ができる。		シミュレーションによるシステム特性の評価について、概要説明ができない。	
評価項目3	システム設計の考え方について、事例を交えた説明ができる。			システム設計の考え方について、概要の説明ができる。		システム設計の考え方について、概要の説明ができない。	
評価項目4	自ら必要な条件を検討した上で、電気回路を対象とした動特性に対するシミュレーション解析ができる。			必要な条件を与えられることによって、電気回路を対象とした動特性に対するシミュレーション解析ができる。		電気回路を対象とした動特性に対するシミュレーション解析ができない。	
評価項目5	システムの故障率と信頼度について、システム毎に適切な値を設計することができる。			システムの故障率と信頼度について、与えられた条件において設計することができる。		システムの故障率と信頼度について、与えられた条件において設計することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	(1)システム制御の概要について説明ができる。 (2)シミュレーションによるシステム特性の評価について、概要説明ができる。 (3)システム設計の考え方について、概要の説明ができる。 (4)必要な条件を与えられることによって、電気回路を対象とした動特性に対するシミュレーション解析ができる。 (5)システムの故障率と信頼度について、与えられた条件において設計することができる。						
授業の進め方・方法	担当教員の準備した資料による座学を行なったのち、与えられた事例・条件における課題に取り組む。						
注意点	本科目は「システム工学」「制御工学」「信号処理技術」などをはじめとする複合的な科目である。 従って、下記の内容についてある程度の知識がある前提で授業を進める。 ・数学 微分・積分・行列・確率・統計など ・制御 オームの法則・ラプラス変換・伝達関数など ・信号処理 位相・複素数・スペクトル・フーリエ変換など						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		本科目における履修内容・評価方法などについて理解する。		
		2週	システム制御の概要		幅広い場面で使用される「システム」という概念について、システム工学の観点を中心に理解する。		
		3週	システムの分類		線形システムと非線形システムなど、対象によって多岐にわたるシステムの分類を理解する。		
		4週	シミュレーション技法		莫大な要素を取り扱うシステムの全体を評価する手法としてシミュレーション技法を理解する。		
		5週	最適化技法		目的に合わせたシステムの最適化について理解する。		
		6週	システム設計 1		システム設計のための目的設定・機能・性能などについて理解する。		
		7週	システム設計 2		システム設計における機能・効率・利便等などの配慮事項について理解する。		
		8週	シミュレーションの概要・モデリング		制御対象の持つ要素のモデリングについて理解する。		
	2ndQ	9週	電気回路の動特性に対するシミュレーション解析 1		時間的に静止した電気回路を想定したシミュレーションのモデリングについて理解する。		
		10週	電気回路の動特性に対するシミュレーション解析 2		時間経過により要素が変化する電気回路を想定したシミュレーションのモデリングについて理解する。		
		11週	システムの信頼性		システムの信頼性を信頼度として数値化できる。		
		12週	故障率と信頼度		信頼度関数と故障率関数の関係について説明できる。		
		13週	直列システム		サブシステムが直列化している場合におけるシステムの信頼性について理解する。		

		14週	並列システム	サブシステムが並列化している場合におけるシステムの信頼性について理解する。
		15週	学力試験	
		16週	学力試験に対する解説	
評価割合				
		試験	小テストおよび課題	合計
総合評価割合		70	30	100
基礎的能力		50	30	80
専門的能力		20	0	20
分野横断的能力		0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	数理計画法	
科目基礎情報							
科目番号	19専25007			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻			対象学年	専2		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	自作テキスト						
担当教員	小川 春樹						
到達目標							
1. 歴史的背景や経営管理・経営計画, 起業計画, 販売管理を理解し, 説明できる。 2. 計量分析, スケジューリングに関する知識とテクニックを理解し, 応用できる。 3. 意思決定方法 (待ち行列などの数理計画手法) に関する知識とテクニックを理解し, 応用できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	歴史的背景や経営管理・経営計画, 起業計画, 販売管理を適切に理解し, 確実に説明できる。			歴史的背景や経営管理・経営計画, 起業計画, 販売管理を理解し, 説明できる。		歴史的背景や経営管理・経営計画, 起業計画, 販売管理を理解できず, 説明できない。	
評価項目2	計量分析, スケジューリングに関する知識とテクニックを適切に理解し, 応用できる。			計量分析, スケジューリングに関する知識とテクニックを理解し, 活用できる。		計量分析, スケジューリングに関する知識とテクニックを理解できず, 活用できない。	
評価項目3	意思決定方法 (待ち行列などの数理計画手法) に関する知識とテクニックを適切に理解し, 応用できる。			意思決定方法 (待ち行列などの数理計画手法) に関する知識とテクニックを理解し, 活用できる。		意思決定方法 (待ち行列など数理計画手法) に関する知識とテクニックを理解できず, 活用できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	良い品質の製品やサービスを効率よく提供するシステムを設計するために学修する。本講義では、企業という経営組織の概念をはじめ、数理計画法の歴史的背景や経営管理・経営計画, 起業計画, 販売管理などに付いて解説する。また、計量分析, スケジューリング, 意思決定方法 (待ち行列など) など企業経営に要する知識とテクニックを解説する。ワークショップではICT機器を活用して、遠隔グループワークのためのノウハウを修得し、実践する。本授業は就職や就職後の業務に関連する。また、進路や人間力向上に関連するトピックスは適宜、紹介する。システム工学的知識を養うことで、自分たちが生活する社会が持続的に発展するように貢献できる能力を身につける。【複数教員担当方式, オムニバス方式, 連携教育科目】						
授業の進め方・方法	講義を基本とする。 1. 連携教育に関するガイダンス: 授業の進め方, 遠隔チームの編成 2. 企業経営の基礎と起業計画: ビジネスプランの作成方法 3. 販売管理: 市場調査, プロモーションミックス, AIDMA 4. ビジネスプラン作成ワークショップ: 市場調査方法, 原価計算手法, 利益計画立案方法 5. スケジューリング: スケジューリングの方法論とその解法 6. 意思決定法: 待ち行列に関する方法論とその解法						
注意点	分からないところや疑問点を残さないように講義中は言うに及ばず随時教員のところに質問に行き, 分からないところや疑問点を無くして次の講義に望むこと。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	連携教育に関するガイダンスと遠隔チーム編成		連携教育に関して理解し, 遠隔チームを編成できること。		
		2週	企業経営の基礎と起業計画および販売管理		企業経営の基礎と起業計画および販売管理について理解できること。		
		3週	販売管理ワークショップ(WS)		販売管理手法を活用し, 応用できること。		
		4週	ビジネスプラン作成WS 1 ガイダンス		ビジネスプラン作成手法を理解すること。		
		5週	ビジネスプラン作成WS 2		ビジネスプランを遠隔チームで考案できること。		
		6週	ビジネスプラン作成WS 3		ビジネスプランを遠隔チームで整理できること。		
		7週	中間テストあるいは中間発表会		ビジネスプランや販売管理について理解し、発表できること。		
		8週	スケジューリング手法について		スケジューリングについて理解できること。		
	4thQ	9週	スケジューリング手法について 2		スケジューリング手法を活用し, 応用できること。		
		10週	スケジューリング手法について 3		スケジューリング手法を活用し, 遠隔チームで整理できること。		
		11週	スケジューリング手法WS 1 ガイダンス		スケジューリング手法を活用し, 応用できること。		
		12週	スケジューリング手法WS 2		スケジューリング手法を活用し, 応用できること。		
		13週	スケジューリング手法WS 3		スケジューリング手法を活用し, 遠隔チームで整理できること。		
		14週	スケジューリング手法WS 4		ワークショップの成果について発表できること。		
		15週	期末試験		60%以上の評価を得る。		
		16週	答案返却・解答説明		振り返りを行い、不足部分を補完できること。		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	40	0	0	20	0	100

基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
專門的能力	40	20	0	0	20	0	80
分野横断的能力	0	20	0	0	0	0	20

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	ロジスティクス工学	
科目基礎情報							
科目番号	19専25008			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	特に指定しないが、自学自習用として「今岡善次郎著 サプライチェーンマネジメント」または「エリアウゴールドラット他著 ザ・ゴール コミック版」を利用する。						
担当教員	岡山 正人						
到達目標							
(1)サプライチェーンマネジメントの概要について説明できる。 (2)制約理論の基本事項について簡単に説明できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		サプライチェーンマネジメントの概要について、歴史的な背景を含めて簡単に説明できる。		サプライチェーンマネジメントの概要について簡単に説明できる。		サプライチェーンマネジメントの概要について説明できない。	
評価項目2		制約理論がどのようなものであるかを簡単に説明でき、集中の5段階やそれを進めるためによく用いられる手法について簡単に説明できる。		制約理論がどのようなものであるかを簡単に説明でき、集中の5段階についてその概要を説明できる。		制約理論がどのようなものであるかが説明できない。	
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		近年、流通業や製造業などでは企業経営の手法としてサプライチェーンマネジメント（SCM）といった考え方が普及しつつある。本講義では、SCMで用いられる理論の一つとして、「制約理論（TOC）」について学習する。					
授業の進め方・方法		授業は講義を中心に、サプライチェーンマネジメントの概要を学び、製菓理論の中心となる「集中の5段階」、製菓条件を管理するための手法、思考プロセスの順に授業を進めたい。 また、最後に自学自習の成果レポートとして「今岡善次郎著 サプライチェーンマネジメント」または「エリアフゴールドラット他著 ザ・ゴール コミック版」の概要をまとめてもらう。					
注意点		「今岡善次郎著 サプライチェーンマネジメント」は資料として渡すが、「エリアフゴールドラット他著 ザ・ゴール コミック版」は自分で用意すること。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	サプライチェーンマネジメント（SCM）とは1		SCMの概要を説明できる。		
		2週	SCMとは2		SCMにおける物、金、情報の動きを説明できる。		
		3週	SCMとは3		SCMにおける需要予測と在庫管理について説明できる。		
		4週	SCMとは4		SCMと制約理論との関連を説明できる。		
		5週	制約理論の概要 1		制約理論とはどのようなものか、その概要を説明できる。		
		6週	制約理論の概要 2		制約理論における集中の5段階について学ぶ		
		7週	集中の5段階 1		集中の5段階を理解するために、鎖とハイキングのアレゴリーおよび部分最適化と全体最適化について説明できる。		
		8週	集中の5段階 2		制約条件のタイプと集中の5段階について説明できる。		
	2ndQ	9週	制約条件管理のための手法 1		ドラム・バッファ・ロープとプロジェクト管理について説明できる。		
		10週	制約条件管理のための手法 2		クリティカル・チェーンとVAT管理について説明できる。		
		11週	制約条件の思考プロセス 1		現状問題構造ツリーとIf-Thenロジックについて説明できる。		
		12週	制約条件の思考プロセス 2		対立解消図と未来構造ツリーについて説明できる。		
		13週	制約条件の思考プロセス 3		ネガティブブランチ、前提条件ツリーと移行ツリーについて説明できる。		
		14週	制約条件の評価尺度 1		スループットとは何かを簡単に説明できる。		
		15週	制約条件の評価尺度 2		スループット会計について簡単に説明できる。		
		16週	予備				
評価割合							
	試験	レポート課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	50	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	50	50	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	環境工学	
科目基礎情報							
科目番号	19専25009			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	岸 拓真						
到達目標							
(1) ロジスティクスと環境マネジメントとの関係を科学的に説明できる。 (2) 我が国の環境行政と他国の動向比較を説明できる。 (3) 企業・組織・団体の環境管理報告書あるいはCSR報告書の実態を文献調査し、その内容をレポートに取りまとめてプレゼンテーションによるディスカッションの題材を提供できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	ロジスティクスと環境マネジメントとの関係を科学的に説明できる。		ロジスティクスと環境マネジメントとの関係性を示す基本的な用語が理解できる。		ロジスティクスと環境マネジメントとの関係性を示す基本的な用語が理解できない。		
評価項目2	我が国の環境行政と他国の動向比較を説明できる。		我が国の環境行政の基本的な経緯が説明でき、他国の状況が理解できる。		我が国の環境行政の基本的な経緯が説明できず、他国の状況が理解できない。		
評価項目3	企業・組織・団体の環境管理報告書あるいはCSR報告書の実態を文献調査し、その内容をレポートに取りまとめてプレゼンテーションによるディスカッションの題材を提供できる。		企業・組織・団体の環境管理報告書あるいはCSR報告書の実態が理解できる。		企業・組織・団体の環境管理報告書あるいはCSR報告書の実態が理解できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	社会システム工学の基礎科目として、ロジスティクス環境工学を通して環境行政あるいは民間企業の経緯や技術動向を学習する。また、グループワークを兼ねて国の環境管理施策の経緯と、具体的に企業の流通チャネルを選定し、ロジスティクスによる環境への影響を整理し、解決策をたてるための環境管理についてグループ・ワーク形式で取り組む。その際、企業・組織・団体等の環境管理報告書あるいはCSR報告書を入手し、実態を検証する能力を習得する。なお、グループワークはプレゼンテーションやディスカッションからコミュニケーションスキルを習得する。						
授業の進め方・方法	授業は講義形式を主体とするが、一部は発表形式として授業を進める。						
注意点	(1)教科書を指定していないため、ディスカッション等で重要なことはメモをとるなど、自学自習ノートとしてしっかりと整理すること。 (2)環境白書および環境行政に関する文献・資料、あるいは企業の環境管理報告書・CSR報告書等は必要に応じてサイトよりダウンロードし、レポート作成とプレゼンテーションのために予習すること。 (3)グループワークはレポート、輪番制でプレゼンテーション、およびその取り組み姿勢等で評価する。なお、グループワークの進捗によっては、プレゼンテーション課題のテーマを適宜変更する。また、グループ・ワークの進捗状況によって時間割の指定曜日および時間に限らず、空き時間に行う。 (4)特別研究の内容を紹介し、その質疑応答からディスカッションの題材とする。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ロジスティクスと環境マネジメントとの関係		1-(1) ロジスティクスが理解できる。		
		2週	ロジスティクスと環境マネジメントとの関係		1-(2) 環境マネジメントが理解できる。		
		3週	グループワーク (「環境報告書」とは何か)		2-(1) 社会的根拠が説明できる。		
		4週	グループワーク (「環境報告書」とは何か)		2-(2) 時代背景 (経緯) が説明できる。		
		5週	グループワーク (「環境報告書」とは何か)		2-(3) 実績 (実態) が説明できる。		
		6週	グループワーク (「環境報告書」とは何か)		2-(4) 成果や課題が説明できる。		
		7週	グループワーク (環境報告書に記載されている環境目標値、取組内容、実績、成果や課題を整理)		3-(1) 環境目標値が説明できる。		
		8週	グループワーク (環境報告書に記載されている環境目標値、取組内容、実績、成果や課題を整理)		3-(2) 取り組み内容が説明できる。		
	2ndQ	9週	グループワーク (環境報告書に記載されている環境目標値、取組内容、実績、成果や課題を整理)		3-(3) 実績 (実態) が説明できる。		
		10週	グループワーク (環境報告書に記載されている環境目標値、取組内容、実績、成果や課題を整理)		3-(4) 取り組み内容が説明できる。		
		11週	グループワーク (環境報告書に記載されている環境目標値、取組内容、実績、成果や課題を整理)		3-(5) 成果や課題が説明できる。		
		12週	特別研究の紹介		4-(1) 特別研究の目的・目標が説明できる。		
		13週	特別研究の紹介		4-(2) 特別研究の方法・結論が科学的に説明できる。		
		14週	特別研究の紹介		4-(3) 特別研究の今後の課題が説明できる。		
		15週	特別研究の紹介		4-(4) 特別研究の質疑応答ができる。		
		16週			まとめ		
評価割合							
	試験	発表	レポート・課題	態度	成果品・実技	その他	合計
総合評価割合	0	100	80	20	0	0	200

基礎的能力	0	50	40	10	0	0	100
專門的能力	0	50	40	10	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	社会システム論	
科目基礎情報							
科目番号		19専25010		科目区分	専門 / 選択		
授業形態		講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科		産業システム工学専攻		対象学年	専2		
開設期		前期		週時間数	2		
教科書/教材		ポケット六法					
担当教員		金子 春生					
到達目標							
1) 社会における問題を発見し、の事象について新自由主義政策が格差を拡大する現在、あらためて地域における産業振興政策のあり方や考え方と共に、それらの政策の評価方法について学ぶ 2) 格差社会の中で福祉の在り方、社会参画の方法について考察する。 3) 上記について4000字程度のレポートにまとめて提出 4) 履修を希望する学生は、初回授業に必ず出席すること。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		社会問題を発見し、説明でき、その解決の視座を示せる		社会問題を発見し、説明できる		社会問題を発見し、説明できない	
評価項目2		社会問題について、法的な観点から、原因を分析し、解決の視座を示せる		社会問題について、法的な観点から、原因を分析できる		社会問題について、法的な観点から、原因を分析できない	
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		社会に日夜様々な問題が生じている。その問題により苦しい立場に置かれている大勢おり、履修者には、社会に関心を持ってもらうのはもちろんのこと、社会における問題発見能力を身につけてもらい、また、社会問題の切り口は様々あるが、この授業では法的な観点からの分析を試みる。ニュース等で話題の事件の法的な側面を捉えて、分析する。さらに、身近な事象についても法的な観点から捉え直し、分析を試みる。 ※この科目では、官公庁での実務経験がある教員が、その経験を活かして実践的な社会問題を前提とした法の仕組み等の教育を行う					
授業の進め方・方法		社会システムのあり方について自ら論じられるようになることを目指したい。資料はこちらで用意して配布するが、ゼミ形式で討論を行うことで理解を深めたい。 社会システムについての基礎が理解出来たら、履修者は、必ず一人複数回報告をしてもらう。報告者以外も資料を読んで質問をしてもらう。					
注意点		無断欠席、無断遅刻は一切認めない。 正当な理由があって予め欠席が分かっている場合は、事前にその旨を伝えること。その場合は欠席分の課題を出す。					
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	社会システムの理解		社会はどのようなシステムからなりなっているかを理解する。 その理解を人に説明できるようにする。		
		2週	社会システムの理解		同上		
		3週	社会システムの理解		同上		
		4週	社会システムの理解		同上		
		5週	社会における問題の発見		ニュースなどを通じて、社会において生じている問題を発見できるようになる。 さらに、身の回りで起こっている出来事の中からも、問題を発見できるようになる。		
		6週	社会における問題の発見		同上		
		7週	社会における問題の発見		同上		
		8週	社会における問題の発見		同上		
	2ndQ	9週	社会における問題の分析		ニュースなどを通じて、発見した社会において生じている問題の原因を分析できるようになる。 さらに、身の回りで起こっている出来事の中から発見した問題の原因を分析できるようになる。		
		10週	社会における問題の分析		同上		
		11週	社会における問題の分析		同上		
		12週	社会における問題の分析		同上		
		13週	社会問題の解決策を考える		ニュースなどを通じて、発見した社会において生じている問題の原因を分析し、その解決策を考えられるようになる。 さらに、身の回りで起こっている出来事の中から発見した問題の原因を分析し、その解決策を考えられるようになる。		

		14週	社会問題の解決策を考える			同上	
		15週	社会問題の解決策を考える			同上	
		16週	レポート作成期末試験			本授業で取り上げたテーマに関連したレポートの作成を求める（5000字以上）	
評価割合							
	試験	レポート・課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	発表・質問その他	合計
総合評価割合	0	50	0	0	0	50	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	50	0	0	0	50	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	計測工学特論	
科目基礎情報							
科目番号	19専25015			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻			対象学年	専2		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	計測における誤差解析入門 (John R. Taylor, 東京化学同人)						
担当教員	梶原 和範						
到達目標							
(1) 実験結果に対する誤差解析の基礎的な考え方を理解すること。 (2) 測定値に存在する誤差が計算の過程でどのように伝搬するかを理解すること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	測定値の標準的表し方と、誤差（不確かさ）の意味を理解した上で、実験計画上の誤差の発生原因を予測できる。		測定値の標準的表し方が行えて、誤差（不確かさ）の意味を理解している。		測定値の標準的表し方が行えて、誤差（不確かさ）の意味を理解していない。		
評価項目2	誤差の伝搬の生成について理解して全体の誤差の計算ができるとともに、実験計画において必要となる計測の不確かさを見積もることができる。		誤差の伝搬の生成について理解し、全体の誤差の計算ができる。		誤差の伝搬の生成について理解できず、全体の誤差の計算ができない。		
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本科目は、数学や自然科学に関する知識から自然現象を科学的に理解するとともに、実践に際してそれらを活用できる能力を身につけるため、測定における誤差の評価を誤差解析により行う。 本科目は、専攻科電子制御系の全ての科目に関係している。						
授業の進め方・方法	(1) 教科書を中心に講義し、演習を行う。 (2) 演習問題を解いて内容の理解を深め、レポートとして提出する。 (3) 期末試験を行う。						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	誤差解析とは		測定値の不確かさを理解する		
		2週	誤差解析とは		読み取り誤差の評価、繰り返し測定の誤差見積もりを理解する		
		3週	誤差評価の適用法		測定値の表し方を理解する		
		4週	誤差評価の適用法		有効数字		
		5週	誤差評価の適用法		不一致		
		6週	誤差評価の適用法		文献値との比較		
		7週	誤差評価の適用法		グラフによるデータ間の相関を理解する		
		8週	誤差評価の適用法		グラフによるデータ間の相関と物理的現象の関連を理解する		
	4thQ	9週	誤差評価の適用法		積における誤差を理解する		
		10週	誤差の伝搬		実測値の誤差について理解する		
		11週	誤差の伝搬		計数実験の平方根則を理解する		
		12週	誤差の伝搬		和と積での伝搬を理解する		
		13週	誤差の伝搬		積と商での伝搬を理解する		
		14週	誤差の伝搬		誤差評価の適用についての演習問題		
		15週	誤差の伝搬		誤差の伝搬についての演習問題		
		16週	定期試験				
評価割合							
	試験	発表	演習・課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	30	0	0	0	100
基礎的能力	20	0	10	0	0	0	30
専門的能力	40	0	10	0	0	0	50
分野横断的能力	10	0	10	0	0	0	20

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	機器加工学	
科目基礎情報							
科目番号	19専25017			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻			対象学年	専2		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	資料配布 (オリジナル)						
担当教員	綿崎 将大						
到達目標							
(1) 旋盤主要部の構造と機能を説明できる。 (2) 機械材料の性質と種類を説明できる。 (3) 鋳造、溶接、塑性加工、切削加工、研削加工の種類、特徴、原理を説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	旋盤主要部の構造と機能を理解し、適切な加工手順を説明できる。			旋盤主要部の構造と機能を説明できる。		旋盤主要部の構造と機能を説明できない	
評価項目2	機械材料の性質と種類を理解し、加工品の使用目的に合わせた適切な材料を選択できる。			機械材料の性質と種類を説明できる。		機械材料の性質と種類を説明できない。	
評価項目3	鋳造、溶接、塑性加工、切削加工、研削加工の種類、特徴、原理を理解し、加工品の形状や用途に合わせた適切な手法を選択できる。			鋳造、溶接、塑性加工、切削加工、研削加工の種類、特徴、原理を説明できる。		鋳造、溶接、塑性加工、切削加工、研削加工の種類、特徴、原理を説明できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	モノづくりに必要な基礎的な知識と考え方を身につける。加工品の形状や使用用途に対して最適な加工法を提案できる機械技術者であることを目指す。講義では、加工機の各種構造や材料、加工方法の特徴について学ぶ。						
授業の進め方・方法	本科目は授業計画に従って授業を進めます。学習内容は、設計 (CAD,CAM)、機械加工などであり、「実習工場に設置された工作機械や測定器具の取り扱い」「比較よく使用される材料の特徴」「切削以外の加工方法と特徴」を主体とする。また、毎時間ごとに学習内容および進捗状況を簡単にまとめて提出する。						
注意点	本科目では、工作機械の実物を見学する機会があるため、作業服が必要となる。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	安全講習		状況に応じた適切なヒヤリハットを想定し、適切な対策を考案することができる。		
		2週	工作機械の定義		工作機械の分類について説明できる。		
		3週	工作機械の特徴		各種工作機械の特徴と使用方法を説明できる。		
		4週	工作機械の見学		各種工作機械の実物について、各装置の役割が説明できる。		
		5週	旋盤の種類と定義		旋盤の種類と特徴について説明できる。		
		6週	旋盤の構成部品		旋盤の構造について、構成部品の名称を用いて説明できる。		
		7週	切削理論		切削抵抗や温度などについて説明できる。		
		8週	バイト		切削対象や形状に適したバイトを選択できる。		
	4thQ	9週	測定器具		ノギス・ダイヤルゲージ・マイクロメータによる測定ができる。		
		10週	材料の種類と特徴		鉄・アルミニウムの種類と加工における特徴について説明できる。		
		11週	材料の種類と特徴		銅・ステンレスの種類と加工における特徴について説明できる。		
		12週	切削以外の加工技術		切削加工以外の加工技術の名称と特徴について説明できる		
		13週	鋳造による成形		鋳造の工程や特徴について説明できる。		
		14週	外力による成形		プレス加工の特徴について説明できる。		
		15週	結合による成形		ボルト、接着、溶接、リベットなどの特徴について説明できる。		
		16週					
評価割合							
	試験	小テスト	レポート・課題	発表	成果品・実技	その他	合計
総合評価割合	70	0	30	0	0	0	100
基礎的能力	50	0	20	0	0	0	70
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	0	10	0	0	0	30

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	信号処理論	
科目基礎情報							
科目番号	19専25018			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻			対象学年	専2		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	教科書は特に定めず、プリントを主体とする。参考書：萩原将文「ディジタル信号処理」（森北出版）						
担当教員	大和田 寛						
到達目標							
(1) Z変換・逆Z変換の計算ができる。 (2) デジタルシステムの伝達関数と各種応答を求めることができる。 (3) アナログフィルタ、ディジタルフィルタを設計することができる。 (4) フーリエ変換（FFT）を用いて、時系列波形の周波数解析を行うことができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		Z変換の概念や性質を理解し、システム構成をz領域で表現できる。また、Z変換を用いて離散時間システムの安定性の判別や周波数応答の導出等ができる。		Z変換の概念や性質を理解し、Z変換・逆Z変換の計算ができる。		基本的なZ変換・逆Z変換の計算ができない。	
評価項目2		離散時間システムについて理解し、システムの構成、伝達関数、周波数特性（ナイキスト線図・ボード線図等）、安定性、過渡特性と定常特性等を求めることができる。		ディジタルシステムの伝達関数と各種応答を求めることができる。		ディジタルシステムの伝達関数と各種応答を求めることができない。	
評価項目3		FIRフィルタ、IIRフィルタの各設計法を理解し、必要に応じて最適なフィルタの設計を行うことができる。		基本的なアナログフィルタ、ディジタルフィルタが設計できる。		基本的なアナログフィルタ、ディジタルフィルタが設計できない。	
評価項目4		フーリエ変換（FFT）を用いて、時系列波形の周波数解析を行うことができる。さらに、フーリエ変換の性質を理解し、その応用について説明できる。		フーリエ変換（FFT）を用いて、時系列波形の周波数解析を行うことができる。		フーリエ変換（FFT）を用いて、時系列波形の周波数解析を行うことができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		Z変換の概念や性質を理解し、システム構成をz領域で表現できる。また、Z変換を用いて離散時間システムの安定性の判別や周波数応答の導出等ができる。					
授業の進め方・方法		離散時間システムについて理解し、システムの構成、伝達関数、周波数特性（ナイキスト線図・ボード線図等）、安定性、過渡特性と定常特性等を求めることができる。					
注意点		FIRフィルタ、IIRフィルタの各設計法を理解し、必要に応じて最適なフィルタの設計を行うことができる。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	Z変換		Z変換の定義・性質、ラプラス変換とZ変換の関係を理解している。		
		2週	Z変換		本的な関数についてZ変換ができる。		
		3週	Z変換		基本的な関数について逆Z変換ができる。		
		4週	伝達関数		ディジタルシステムの伝達関数の基本を理解している。		
		5週	伝達関数		基本的な例について伝達関数を求めることができる。		
		6週	アナログフィルタ		フィルタの種類と理想的なフィルタ特性について理解している。		
		7週	アナログフィルタ		アクティブフィルタの基礎を理解している。		
		8週	アナログフィルタ		ベッセル、バターワース、チェビシェフの各フィルタの基礎を理解している。		
	4thQ	9週	アナログフィルタ		アクティブフィルタを設計し、周波数特性の測定を行うことができる。		
		10週	ディジタルフィルタ		FIRフィルタ、IIRフィルタの基礎を理解している。		
		11週	ディジタルフィルタ		ディジタルフィルタの周波数特性について理解している。		
		12週	ディジタルフィルタ		FIRフィルタの設計法について理解している。		
		13週	ディジタルフィルタ		IIRフィルタの設計法について理解している。		
		14週	フーリエ変換		フーリエ級数について理解している。		
		15週	フーリエ変換		フーリエ変換について理解している。		
		16週	フーリエ変換		信号の伝送とスペクトルについて理解している。		
評価割合							
	発表	レポート・課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計

総合評価割合	40	30	20	10	0	0	100
基礎的能力	15	10	10	5	0	0	40
専門的能力	25	20	10	5	0	0	60
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	画像工学	
科目基礎情報							
科目番号	19専25021			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻			対象学年	専2		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	Digital Imabe Processing(R.C.Gonzalez, Prentice Hall)						
担当教員	成清 勝博						
到達目標							
(1) コントラストの改善方法が理解できる。 (2) モフォロジー演算の基本が理解できる。 (3) カラー画像に対する基本的手法が理解できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	与えられた画像の問題点、解決手法を見いだし、改善できる。			コントラスト改善の手法が理解できる。		コントラスト改善の手法が理解できない。	
評価項目2	モフォロジー演算が理解でき、適切な方法を選択できる。			モフォロジーの基本操作が理解できる。		モフォロジーの基本操作が理解できない。	
評価項目3	カラー画像とモノクロ画像との違いを理解し、適切に処理できる。			各色成分に分解し、処理できることが理解できる。		各色成分に分解し、処理できることが理解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	① 情報技術を活用して、必要な情報の検索や収集、データ分析をすることができる能力を身につける。②コンピュータの性能向上により、これまで、実現が困難であった画像処理が身近になってきた。人間の視覚をコンピュータで実現できる画像処理技術は重要な情報処理の分野のひとつになってきた。この授業では、画像処理の基本手法を教授し、演習によってそれを確かめる。						
授業の進め方・方法	演習室で講義と演習を行う。作成したプログラムの報告書作成を時間外に課す。						
注意点	C言語に似た画像処理専用のソフトを使用する。C言語の知識が前提となる。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	画像処理用ソフトウェアの使用法		授業で使用するソフトウェアの使い方が理解できる。		
		2週	濃淡画像のコントラスト改善		濃淡画像のヒストグラムが理解できる。		
		3週	濃淡画像のコントラスト改善		2値画像に変換できる。		
		4週	濃淡画像のコントラスト改善		ルックアップテーブルによる濃淡変換ができる。		
		5週	モフォロジー変換		画像と領域の区別ができる。		
		6週	モフォロジー変換		領域の連結性が理解できる。		
		7週	モフォロジー変換		領域の膨張と浸食が理解できる。		
		8週	モフォロジー変換		領域の膨張と浸食を利用して、いくつかのモフォロジー演算が導出できることを理解できる。		
	4thQ	9週	モフォロジー変換		領域のエッジ検出ができる。		
		10週	モフォロジー変換		領域の穴を埋めることができる。		
		11週	カラー画像処理		チャンネル分解と合成ができる。		
		12週	カラー画像処理		BMP形式とJPG形式の画像の違いがわかる		
		13週	カラー画像処理		色数のカウントができる。		
		14週	画像処理の応用		マークシートリーダーのプログラムが作成できる。		
		15週	画像処理の応用		動画処理でモニタリングプログラムが理解できる。		
		16週	課題提出の確認				
評価割合							
	試験	レポート	成果品	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	60	40	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	50	40	0	0	0	90
分野横断的能力	0	10	0	0	0	0	10

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	マーケティング・リサーチ	
科目基礎情報							
科目番号	19専25022			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻			対象学年	専2		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	教科書は定めない。参考書として「木下栄蔵著 わかりやすい数学モデルによる多変量解析入門」を用いる。						
担当教員	岡山 正人						
到達目標							
(1)社会調査の考え方や、多変量解析の主な手法についてその概要を理解する。 (2)各手法の分析結果について簡単に説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	社会調査の方法や標本数の決定方法、データの有効性の検討手法、多変量解析の主な手法についてどのようなものがあるかを簡単に説明できる。			社会調査の方法や多変量解析の主な手法についてどのようなものがあるかを簡単に説明できる。		社会調査の方法や多変量解析の主な手法についてどのようなものがあるかが説明できない。	
評価項目2	多変量解析の主な手法について、その数理モデルや得られた分析結果を簡単に説明できる。			多変量解析の主な手法について、得られた分析結果を簡単に説明できる。		多変量解析の主な手法について、得られた分析結果を説明できない。	
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	社会調査の基礎となる調査方法や標本数の決定方法、経営に必要なマーケティングリサーチでよく利用される多変量解析について代表的なものを学び、統計的な考え方に基づいたデータの収集法や高度なデータ分析の方法の素養を養う。なお、本講義では数学的な厳密さよりも実例や演習を通して利用方法や利用時の注意事項などを中心に説明する。						
授業の進め方・方法	標本誤差による標本数の決定方法、適合度の検定によるデータのp有効性の決定方法など、社会調査で利用される統計的な考え方を紹介するとともに、多変量解析の手法として重回帰分析、判別分析、主成分分析（因子分析）などを紹介する。本講義では数学的な厳密さよりも実例や演習を通して利用方法や利用時の注意事項などを中心に説明する。また、講義（基本的な事項の説明）を中心に授業を進める。また、1つの手法の解説後には、その手法を使った演習を行い、レポートを提出してもらう。						
注意点	基本統計量や相関係数など、講義の中で復習はするが、事前にその意味や公式を確認しておくこと。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	統計学の復習		データの種類、基本統計量、相関係数、母集団と標本、統計的検定の考え方について簡単に説明できる。		
		2週	社会調査の方法 1		社会調査とは何かを説明できる。		
		3週	社会調査の方法 2		適合度の検定によるデータの有効性の検討ができる。		
		4週	社会調査の方法 3		標本誤差による標本数の決定ができる。		
		5週	多変量解析とは		多変量解析とはどのようなもので、そのような手法があるかを説明できる。		
		6週	単回帰分析と最小二乗法		単回帰分析および、その求め方である最小二乗法について説明できる。		
		7週	重回帰分析 1		重回帰分析がどのような手法かを説明できる。		
		8週	重回帰分析 2		重回帰分析の実例を通して得られた結果の解釈ができる。		
	4thQ	9週	重回帰分析 3		重回帰分析の演習を行い、その結果を説明できる。		
		10週	判別分析 1		判別分析がどのような手法かを説明できる。		
		11週	判別分析 2		判別分析の実例を通して得られた結果の解釈ができる。		
		12週	判別分析 3		判別分析の演習を行い、得られた結果を説明できる。		
		13週	主成分分析と因子分析 1		主成分分析・因子分析がどのような手法かを説明できる。		
		14週	主成分分析と因子分析 2		主成分分析・因子分析の実例を通して得られた結果の解釈できる。		
		15週	主成分分析と因子分析 3		主成分分析・因子分析の演習を行い、それぞれ得られた結果を説明できる。		
		16週	予備				
評価割合							
	試験	課題レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	50	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	50	50	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	特別研修
科目基礎情報						
科目番号	19専25023		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	演習		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻		対象学年	専2		
開設期	通年		週時間数	1		
教科書/教材	なし					
担当教員	雷 康斌					
到達目標						
実社会や異文化社会における技術者とはどのようなものなのかを理解する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	特別研修の目標と取り組むにあたっての心構えについて認識できる。		特別研修の目標と取り組むにあたっての心構えについて概ね認識できる。		特別研修の目標と取り組むにあたっての心構えについて認識できていない。	
評価項目2	特別研修に使用する機器・器具を用いて、基本的な手順をもとに安全に特別研修を実施することができる。		特別研修に使用する機器・器具を用いて、安全に特別研修を実施することができる。		特別研修に使用する機器・器具を用いて、安全に特別研修を実施することができない。	
評価項目3	特別研修の目的・手順・成果を論理的にまとめ、評価・報告することができる。		特別研修の目的・手順・成果を論理的にまとめることができる。		特別研修の目的・手順・成果を論理的にまとめることができない。	
評価項目4	特別研修の基礎研究を実施し、得られた成果を分析し、様々な視点から成果を考察することができる。		特別研修の基礎研究を実施し、得られた成果を分析することができる。		特別研修の基礎研究を実施して得られた成果を分析することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	企業におけるインターンシップ、海外語学研修や各種出前授業（総称として研修とする）を実施し、実社会での活動、語学や異文化、人前で講義することを体験することにより社会や産業の状況を把握するとともに、これまでに主として座学で学んだ理論あるいは実験で学んだ事柄が、実際にどのように応用されているかを理解する。また、実社会でのグローバル技術者としての心構えについて自ら考え、知識や技術、情報などを自発的かつ継続的に獲得する能力を養う。					
授業の進め方・方法	実社会や異文化社会における技術者とはどのようなものなのかを理解するため、本校の出前授業、企業におけるインターンシップ、海外語学留学など体験型の学習を実施する。					
注意点	（１） 研修先により異なるため、受け入れ先の条件、概要を充分把握しておくこと。 （２） 研修中は、受け入れ先の指導を良く守り、本校の専攻科生であることを自覚して行動すること。また、事前に傷害保険等に入っておくこと。 （３） 報告書は、期限内に必ず提出すること。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	概要説明	（１） 特別研修に取り組むに当たっての基本的な心構えについて認識できる。 （２） 研修の概要、目的を理解する。 （３） 特別研修の報告書の書き方について理解できる。 （４） 特別研修を実施する際の災害防止と安全について理解できる。		
		2週	研修先の希望調査	先の受け入れ先の条件等を把握する。		
		3週	研修先の希望調査	先の受け入れ先の条件等を把握する。		
		4週	研修先の調整	受け入れ先の決定を行う。		
		5週	研修先の調整	受け入れ先の決定を行う。		
		6週	事前調査	受け入れ先の概要および研修に必要な知識等を事前学修する。		
		7週	事前調査	受け入れ先の概要および研修に必要な知識等を事前学修する。		
		8週	事前レポートの作成	受け入れ先について調べた内容をレポートととして作成する。		
	2ndQ	9週	研修の実施	研修先での研修内容を修得し、実社会での心構え等について体得する。		
		10週	研修の実施	研修先での研修内容を修得し、実社会での心構え等について体得する。		
		11週	研修の実施	研修先での研修内容を修得し、実社会での心構え等について体得する。		
		12週	研修の実施	研修先での研修内容を修得し、実社会での心構え等について体得する。		
		13週	研修の実施	研修先での研修内容を修得し、実社会での心構え等について体得する。		
		14週	研修成果レポートの作成	研修内容をレポートにまとめる。（別紙：研修報告書）		

		15週	研修成果発表	研修で得た成果を発表することで、プレゼンテーション能力を向上させる。
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	レポート・課題	発表	成果品・実技	合計
総合評価割合	0	0	0	0	50	0	50	100
基礎的能力	0	0	0	0	20	0	20	40
専門的能力	0	0	0	0	20	0	20	40
分野横断的能力	0	0	0	0	10	0	10	20